



戦略的イノベーション創造プログラム(SiP)

Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

A-1 コミュニティと共進化するデジタルツインによる 次世代型包摂的まちづくり手法と包摂性評価指標の開発

ラウンドテーブル配布資料(全体マネジメント会議資料)

令和7年2月10日

研究開発代表機関 産業技術総合研究所

分担機関 大和ハウス工業

つくばウエルネスリサーチ

筑波大学

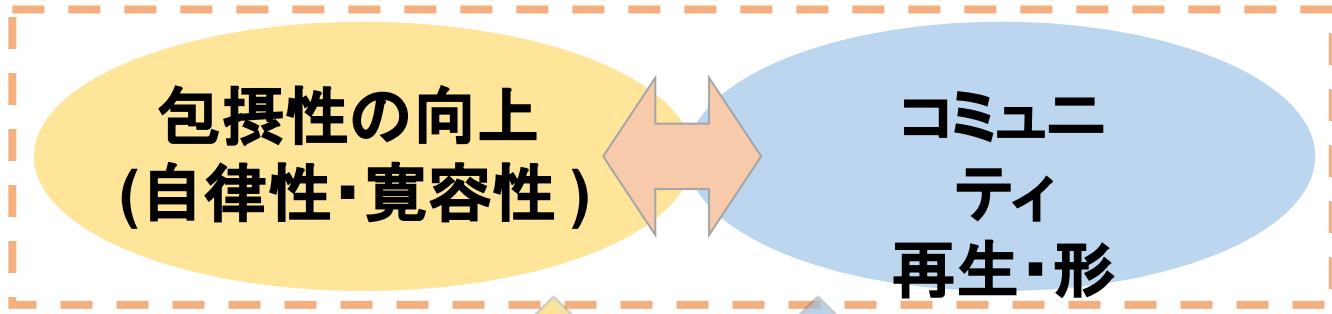
東京大学



1. 3年後、7年後の社会実装の姿 | 目指すべき社会

社会課題

関係の希薄化
価値観の対立・分断
運営属人化、高齢化



A-1のアプローチ

多様な“つながり”の生成を促進する

①ひとづくりアプローチ(ナッジ、仕掛け、人材育成)
孤立・孤独しがちな人、コミュニティへの関心が低い人をつなぐ

②仕組みづくりアプローチ(ツール・ガイドライン、組織)

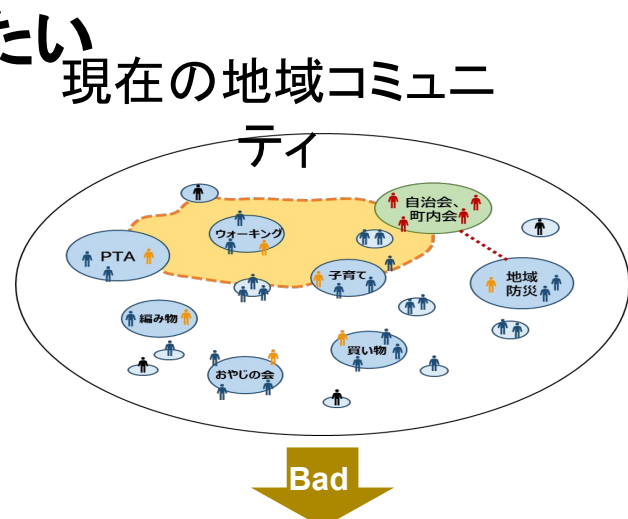
目指すべき地域コミュニティの姿
多様な人・集団のつながり、持続的な運営システムをつくる

ある価値観を持った人・集団どうしが
お互いに認め合う包摂的なコミュニティ



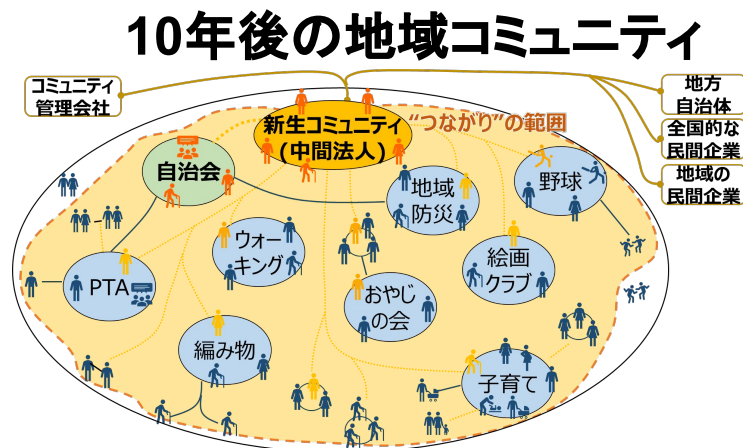
図 包摂社会を目指した全体としての多角的なアプローチ

関係性の希薄化・分断等に関する「地域コミュニティ」の課題を解決したい



↓ Bad

関係の希薄化
価値観の対立・分断



価値観が異なる人・集団間で
“つながり”が生まれる

■コミュニティの包摂性向上

- 【寛容性】多様な価値観の共存
- 【自律性】一人ひとりの主体性・生きがい

■コミュニティ再生・形成

- 地域コミュニティが地域課題に取り組み主体として機能
- 継続的なメンバー、継続的な活動

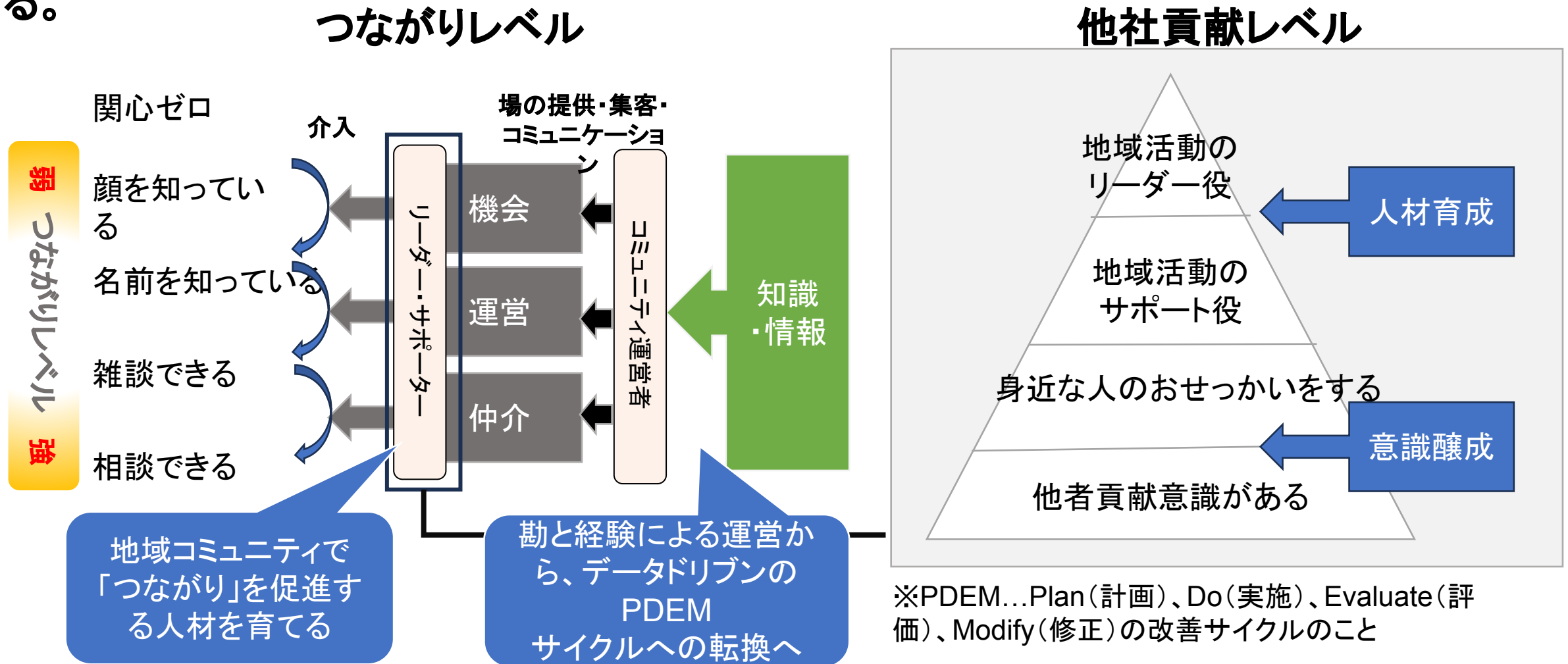
実現に向けた根源的な課題
「知識」...勘と経験に依存

「ヒト」...人材不足

| 自治会の現在の課題 | 団体数 | 割合 |
|--------------|-------|-------|
| 全体 | 1,142 | — |
| 役員・運営の担い手不足 | 984 | 86.1% |
| 役員の高齢化 | 946 | 82.8% |
| 近所付き合いの希薄化 | 676 | 59.2% |
| 加入率の低下 | 608 | 53.3% |
| 行政からの依頼事項が多い | 414 | 36.2% |

1. 3年後、7年後の社会実装の姿 | 包摂性を高める仕組み ①考え方

住民同士の「弱いつながり」を促進するための「機会」「運営」「仲介」の機能について、特に「知識・情報面」「人材面」からサポートすることで、地域の包摂性向上に貢献する。



地域コミュニティで「つながり」を促進する人材を育てる

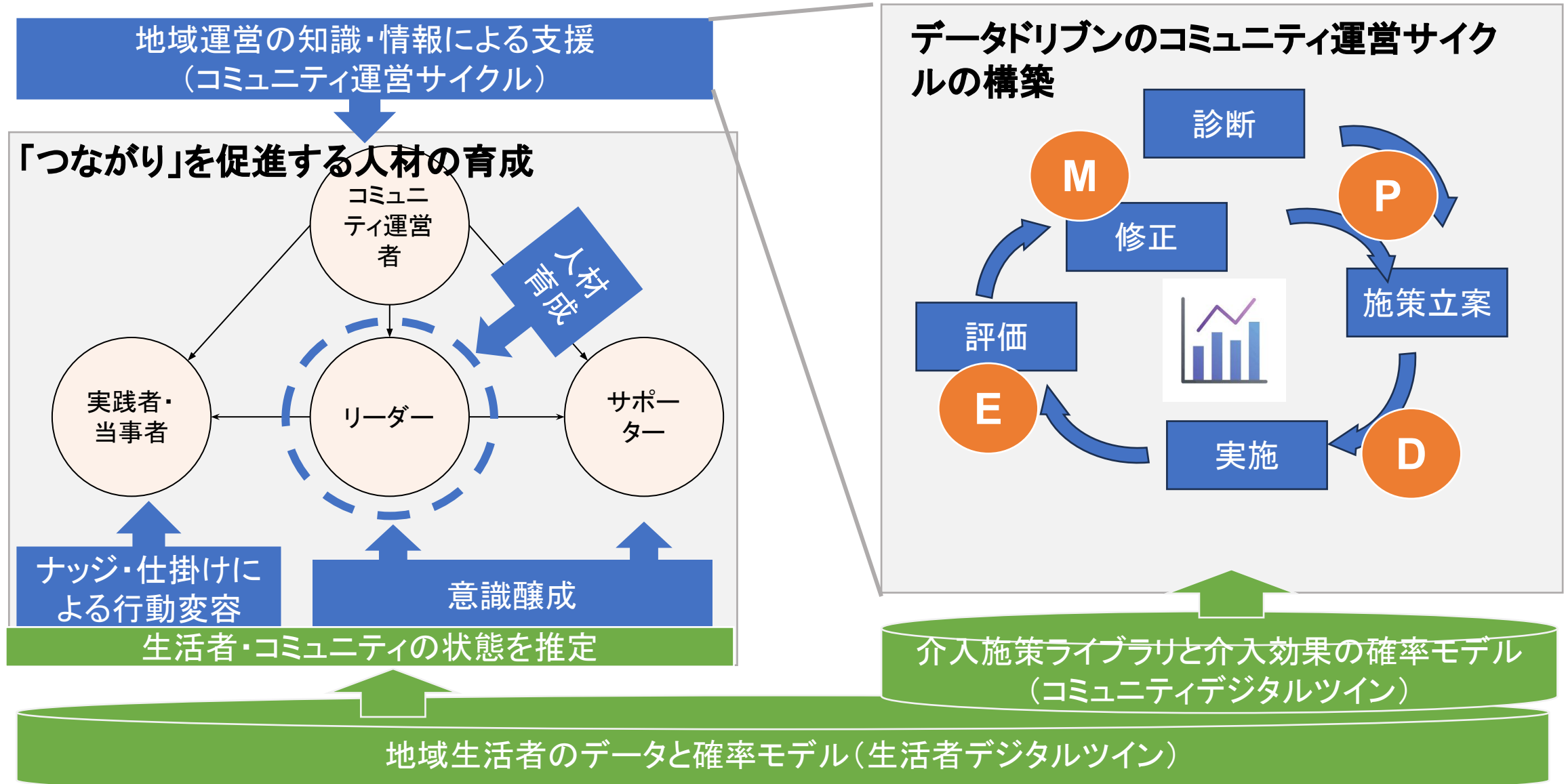
勘と経験による運営から、データドリブンのPDEMサイクルへの転換へ

「ヒト」...人材不足

「知識」...勘と経験に依存

1. 3年後、7年後の社会実装の姿 | 包摂性を高める仕組み ②解決策

地域コミュニティの運営主体やその参加者に対して、データドリブンの意思決定の支援や行動変容の促進をするとともに、「つながり」を促進する人材育成を行う。



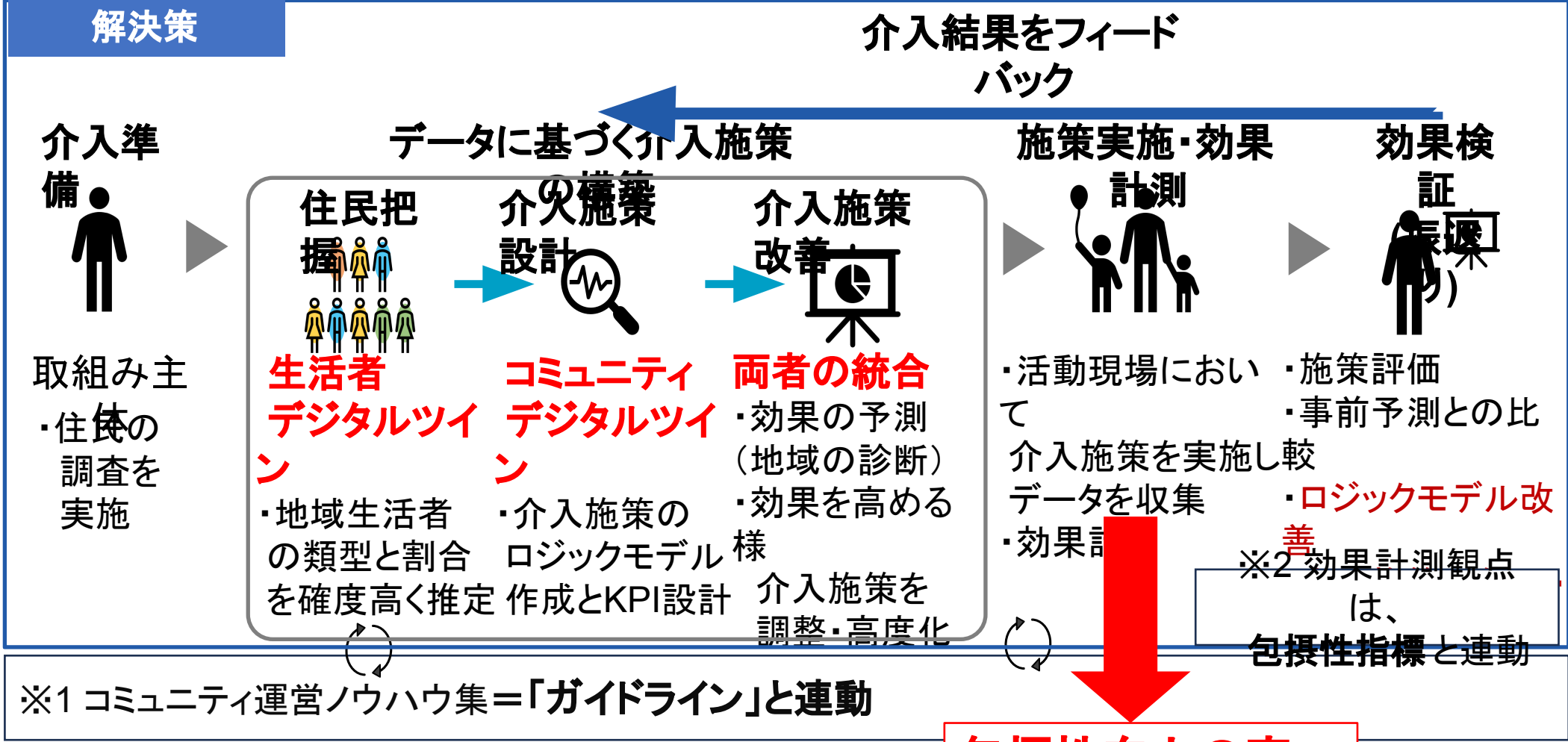
1. 3年後、7年後の社会実装の姿 | 開発する社会技術①コミュニティ運営サイクル

データドリブンのコミュニティ運営サイクルの構築

地域コミュニティで「つながり」を促進する役割を担う人へデジタル支援ツールを提供し、担い手の負担を軽減
 介入施策について計測データ、アンケート、ナラティブ情報を活用して効果を検証。介入結果をフィードバックしつつPDEMサイ
 クル導入により、包摂性向上への寄与への観点を含め、介入施策を改善。

コミュニティ運営者のペイン (困り事)

- 勤と経験に依存
- ・地域住民の特徴や所属コミュニティを把握できていない
 - ・効果的なイベントをどう設計したらよいか知見がない
 - ・イベントの効果を振り返り、次に活かすことができていないなど

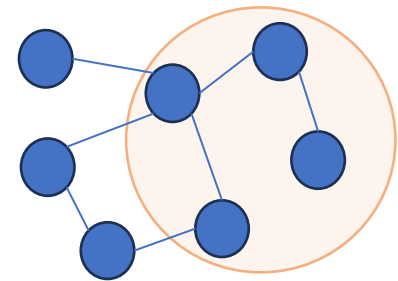


1. 3年後、7年後の社会実装の姿 | 開発する社会技術①コミュニティ運営サイクル

デジタルツインの提供価値(使い道)

社会参加状況・つながりの状況を推定

住民アンケート

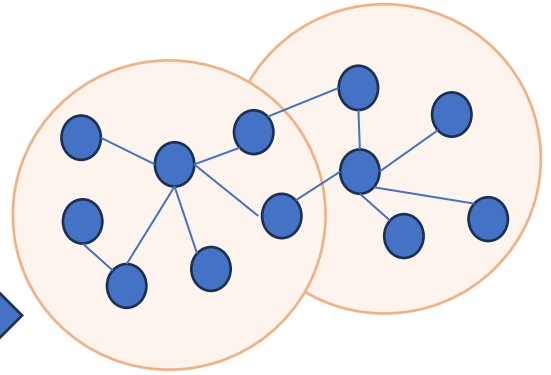


コミュニティに所属していない人(孤立)を発見することも可能。ただし、岩盤層へのアプローチは、民生委員・ケアマネージャーにつなぐ

コミュニティ同士の関係性を推定



住民にマイページに登録してもらい、参加コミュニティを把握。



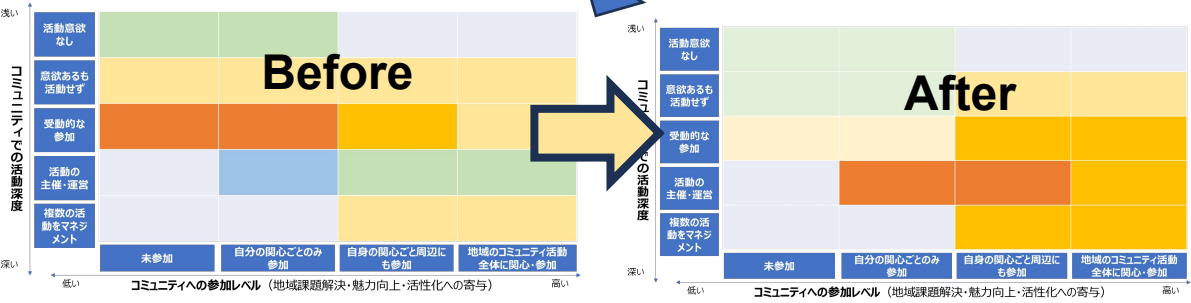
ダッシュボード化(地域・住民の状態把握)

定点観測・状態遷移の把握ができる

地域の状態に応じて、介入施策を検討できる



関係管理システム

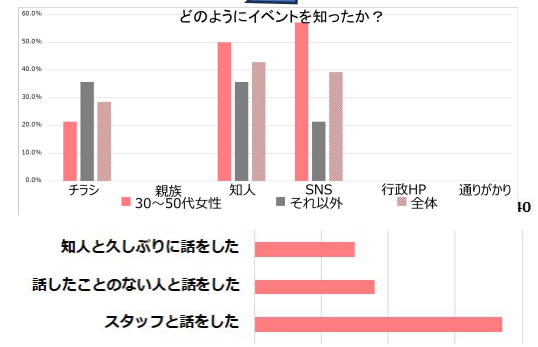
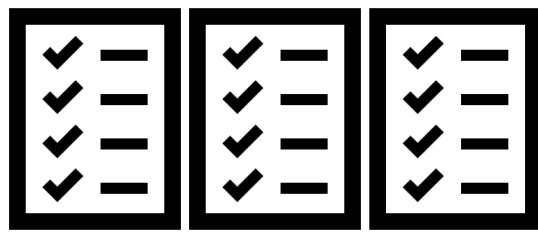


アンケートの生成・ダッシュボード化(効果計測)



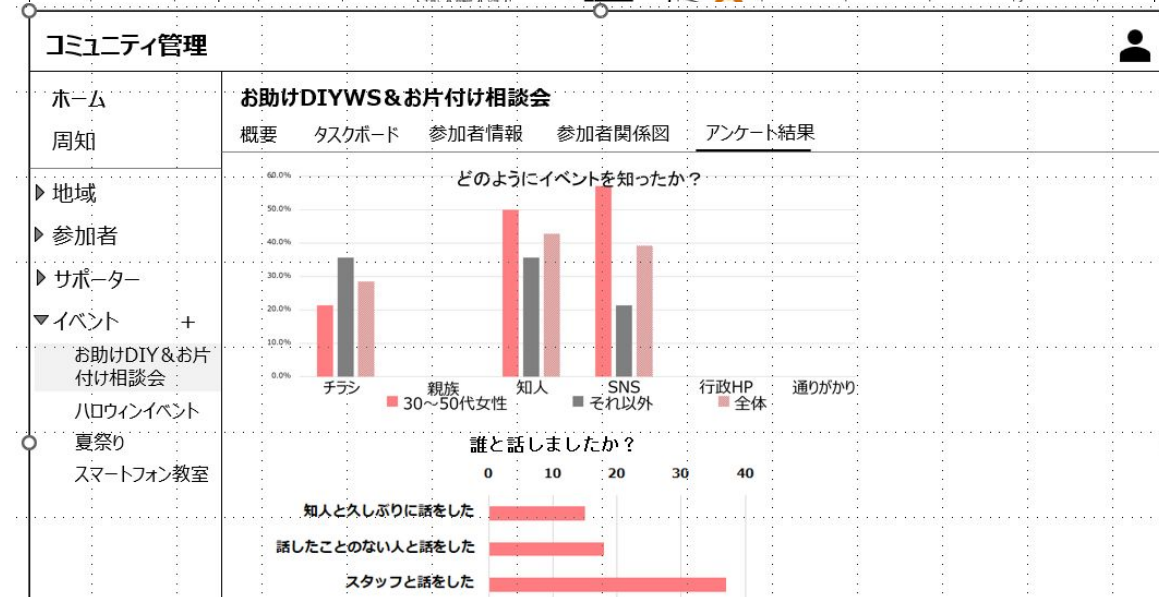
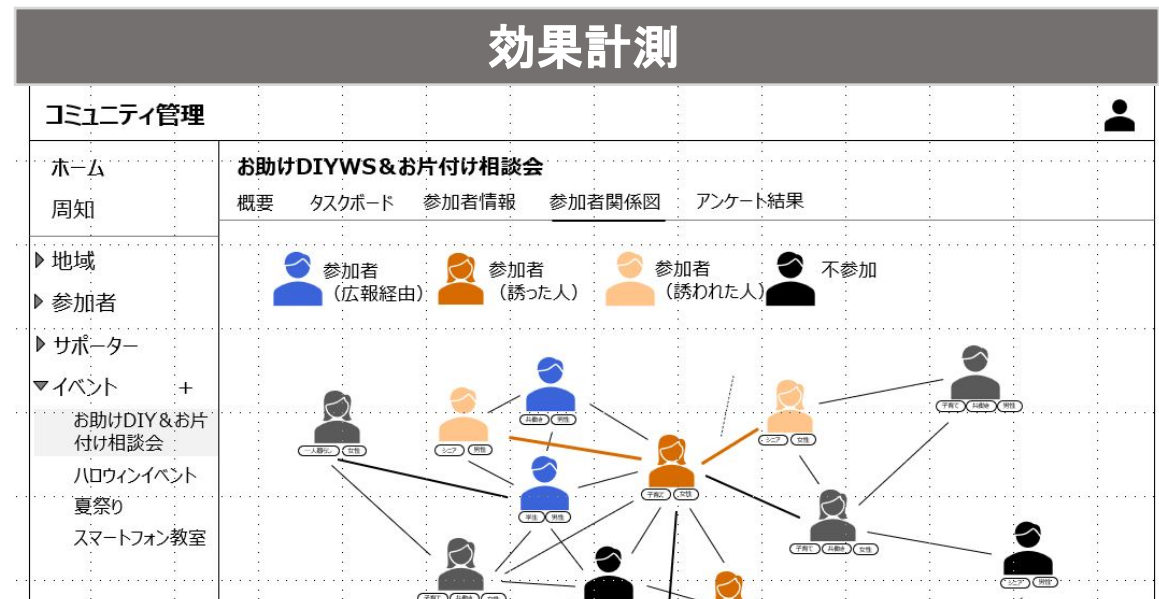
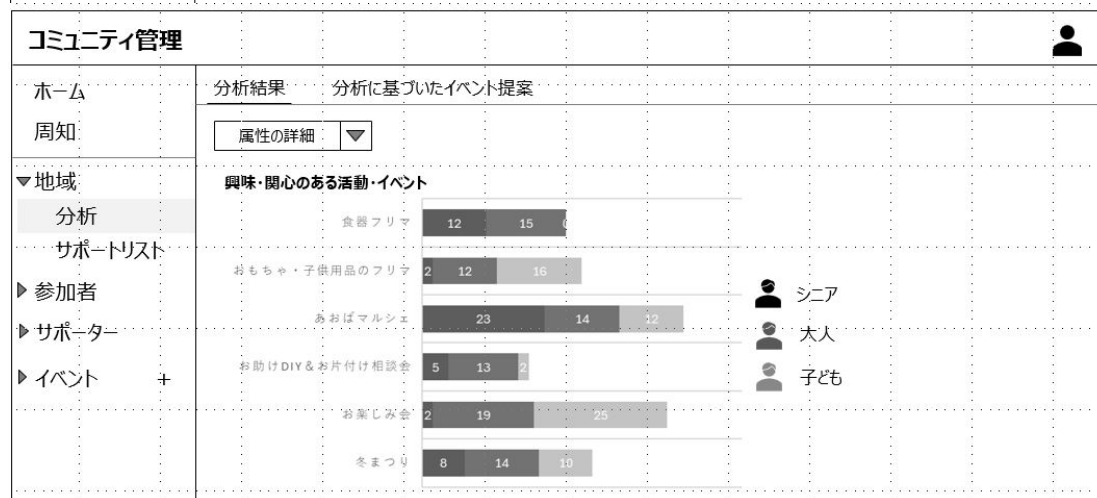
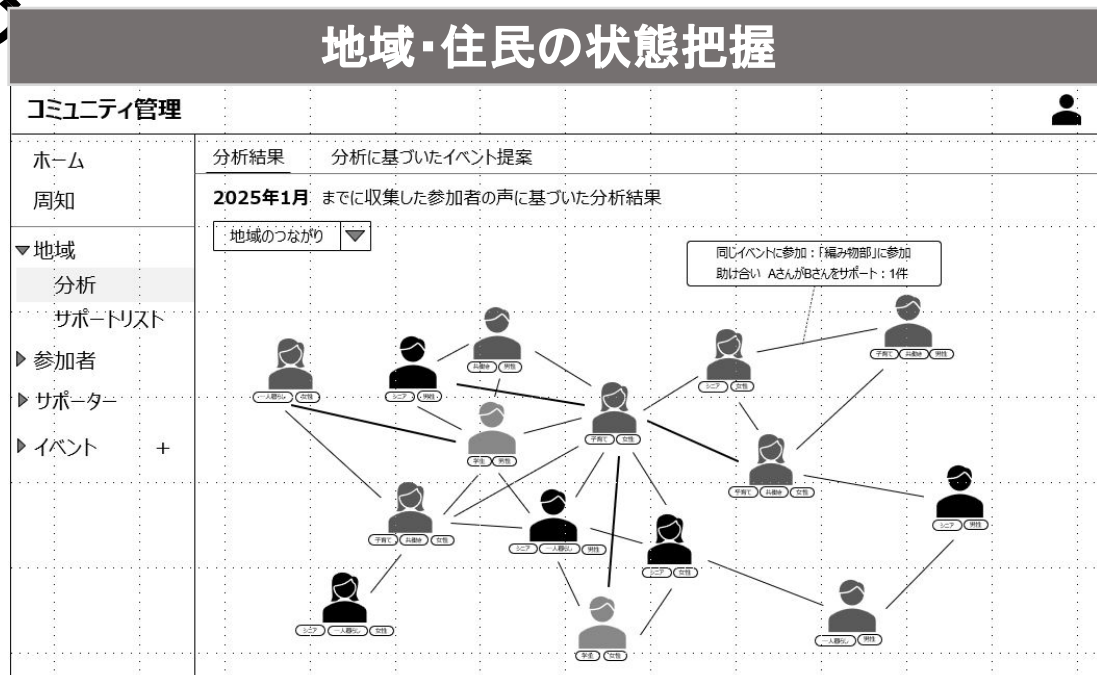
アンケート生成

コミュニティダッシュボード



1. 3年後、7年後の社会実装の姿 | 開発する社会技術①コミュニティ運営サイクル

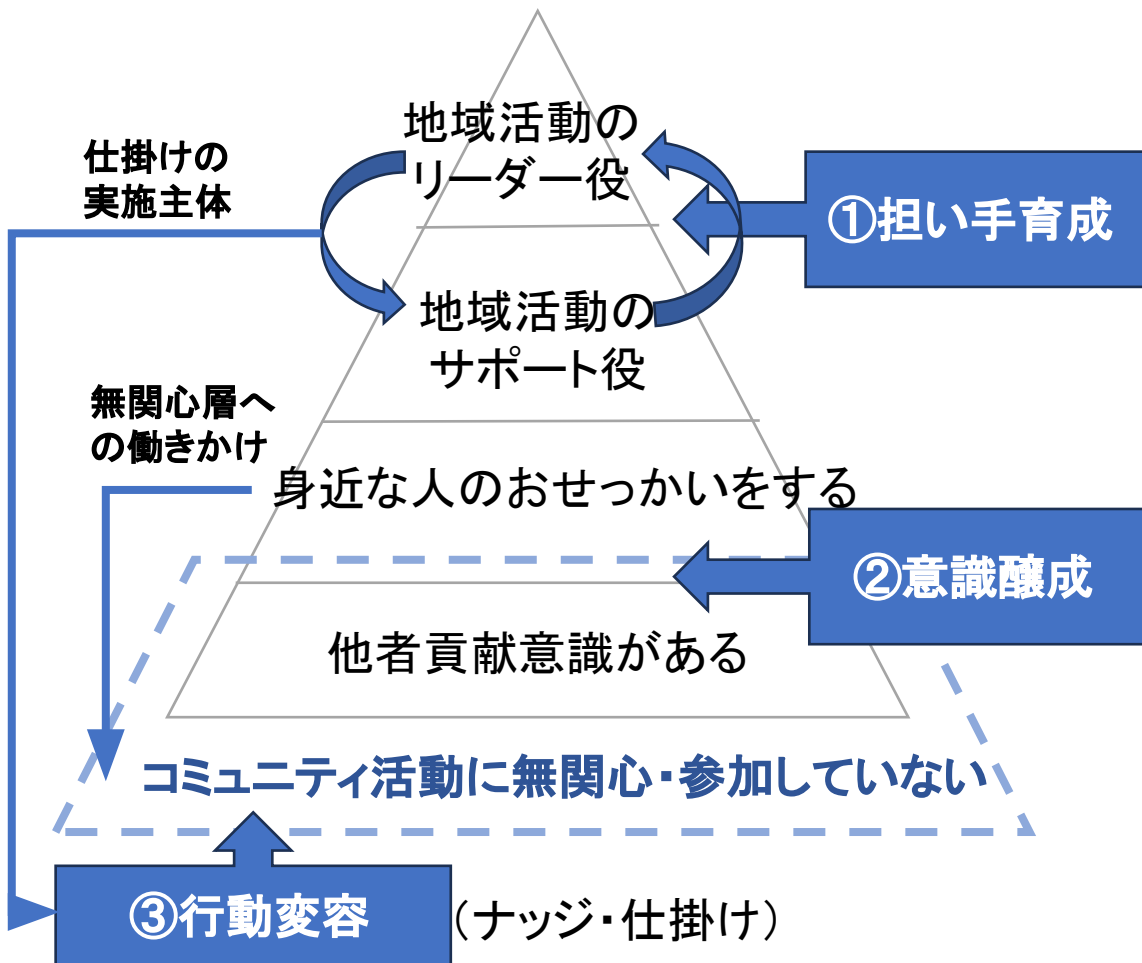
コミュニティダッシュボードのイメージ



1. 3年後、7年後の社会実装の姿 | 開発する社会技術②つながりを促進する人材育成

地域コミュニティ活動を支える人材の育成は不可欠であり、本質的なテーマである。

住民のコミュニティ活動への参加レベルでペルソナ分類を行い、適切な人材育成を各ペルソナへのアプローチにより、コミュニティ活動の参加レベルを向上させることが可能



対象ペルソナ

人材育成プログラム

期待される効果

- ① 地域のコミュニティ活動を担うことが可能な住民
- ② 現時点でコミュニティ活動に参加していても、他者貢献意識がある住民
- ③ コミュニティ活動に無関心・参加して①担い手育成プログラムを開発
②意識醸成プログラムを開発
③介入施策として「行動を通じた意識変容」の仕掛け・「互酬性を可視化」する仕掛けを開発
健康を維持し、自己効力感、コミュニティツプ力、コミュニケーション力、インフルエンス力が向上し、その結果、多様な“つながり”が生まれ、自律性・寛容性が高まる (人材育成には、行動変容を促す/含む)

1. 3年後、7年後の社会実装の姿 | ビジネスモデル展開シナリオ

まずは大和ハウス主体の地域内モデルを成立。今後、PFS・SIBを活用したスキームを確立し、参加地域の拡大・データ蓄積を進める。将来的には、全国的なプラットフォームにおいてデータの管理や各地域コミュニティ運営の総合的な支援を行う。

Step3 (7年後)

全国展開と
プラットフォーム構築

Step2 (3年後)
他地域等への横展開
(自治体主体など)

参加地域の拡大とデータの蓄積 → 全国規模でデータを管理する機能が必要 (分散管理の仕組み)

全国組織(「包摂機構(仮称)」)を設立することも想定。
※機構の機能として、人材派遣を含む各地域コミュニティ運営の総合的支援を行う。

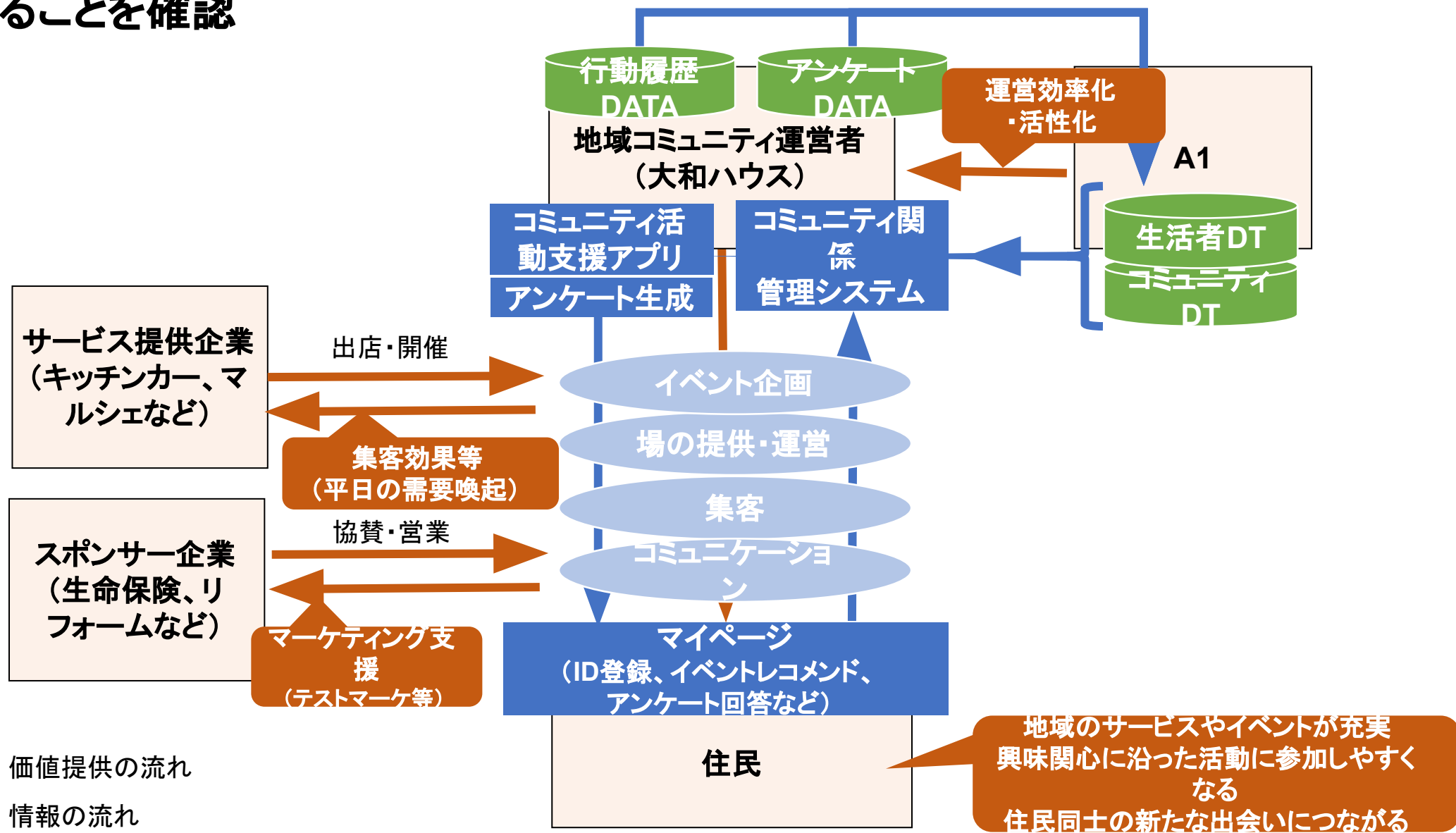
Step1
大和ハウス主体
(リブネスタウン)における
地域内モデル構築

特定の地域コミュニティかつデベロッパーが運営主体となっているケースで、価値提供モデルが成立することを実証

大和ハウスが関与しない地域(自治体)への展開
⇒PFS・SIBを活用したビジネススキームの確立を目指す(生活者データ・介入効果データの蓄積が活かされる)

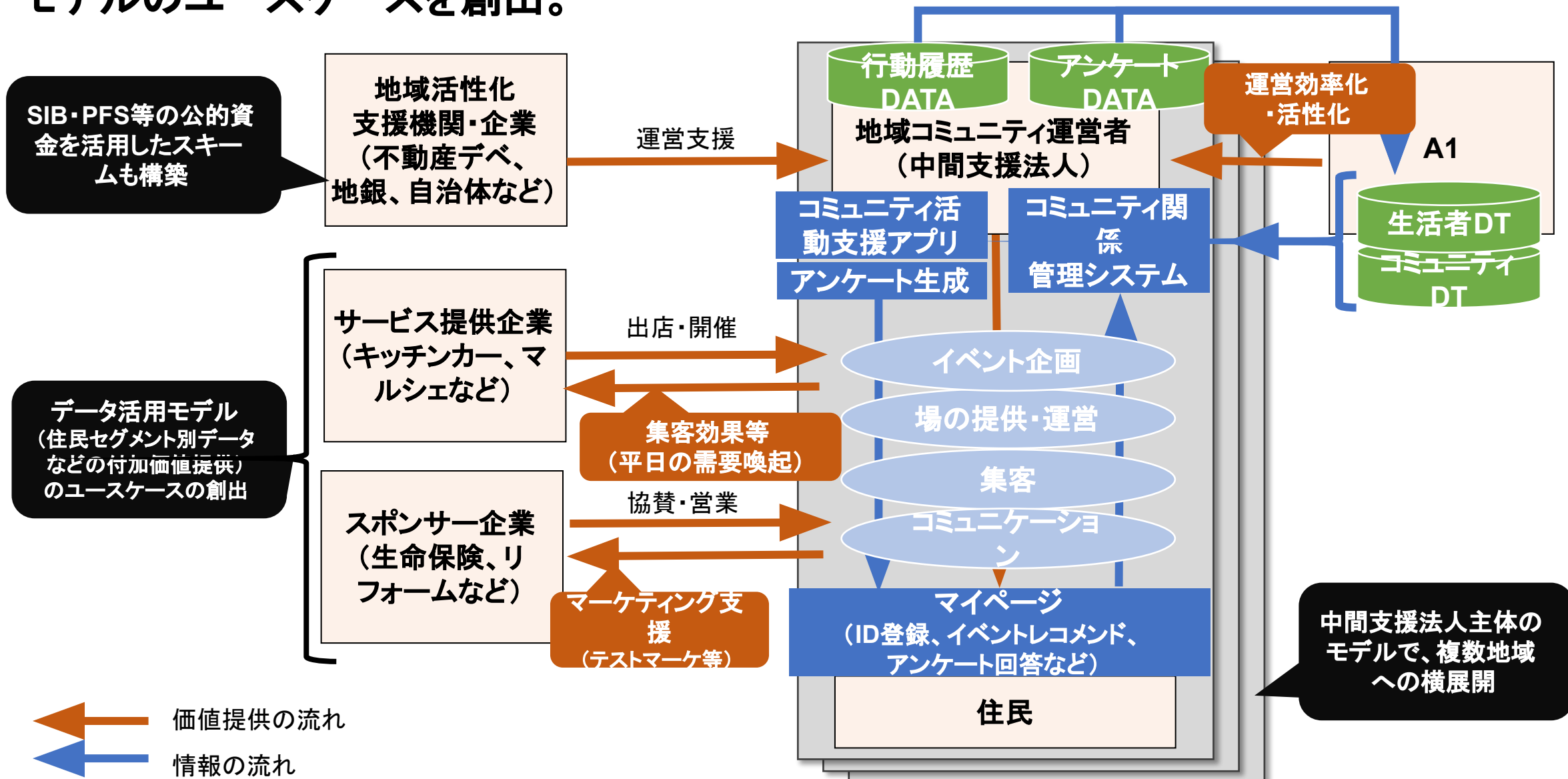
1. 3年後、7年後の社会実装の姿 | ビジネスモデル (Step1)

令和6年度は、大和ハウス運営の地域コミュニティにおいて、価値提供・情報の流れが成立することを確認



1. 3年後、7年後の社会実装の姿 | ビジネスモデル (Step2)

3年後には、大和ハウスが関与しない地域(自治体)へ横展開するとともに、データ活用モデルのユースケースを創出。



2. これまでの成果と令和7年度以降の計画 | 全体像

- 令和6年度までにプロトタイプ開発・PoC等を実施。令和7年度にデータ・コンテンツを拡充のうえ、実証・評価を繰り返す。また、社会実装に向けたビジネススキームや活動スキームの構築も並行して実施する。

| | | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-----------------------------|---------------------------|--------------------------------|--|-------------------------|
| データブリッジの コミュニティ運営サイクルの構築 | ①DTによる 支援ツール ・拠点づくり | プロトタイプを作成し 加賀松が丘で PoCを実施 | (1) データの質・量を高めて、技術の完成度を高める (2) 介入施策の拡充・複数回のPoC (自律性・寛容性向上効果検証) (3) 他地域・DH以外のフィールドとの比較検証 (4) 阪南こども園にて実施し、C1との連携も検討 | |
| | ②ガイドライン | (1) 骨子作成 (2) 体制構築 | (1) 利用者・利用シーンの検討 (2) コンテンツ拡充・ DT・人材育成との連動 | 使いやすさの向上 (UI/UXの 改善) |
| | ③事業スキーム 構築 | 地域再生法改正 AITec内WG設置 | (1) 地域再生推進法人の認定 (2) データ活用モデルの検討 (3) PFS・SIBスキームの検討 | 制度設計等 |
| | ④包摂指標 | β版の作成 | 「①DT支援ツール」との連動 | |
| ⑤人材育成 | 初期プログラム開 発 効果分析等 | プログラム作成・実証 | プログラム評価・改善 | 活動スキーム構築・エビデンスデータの蓄積 |

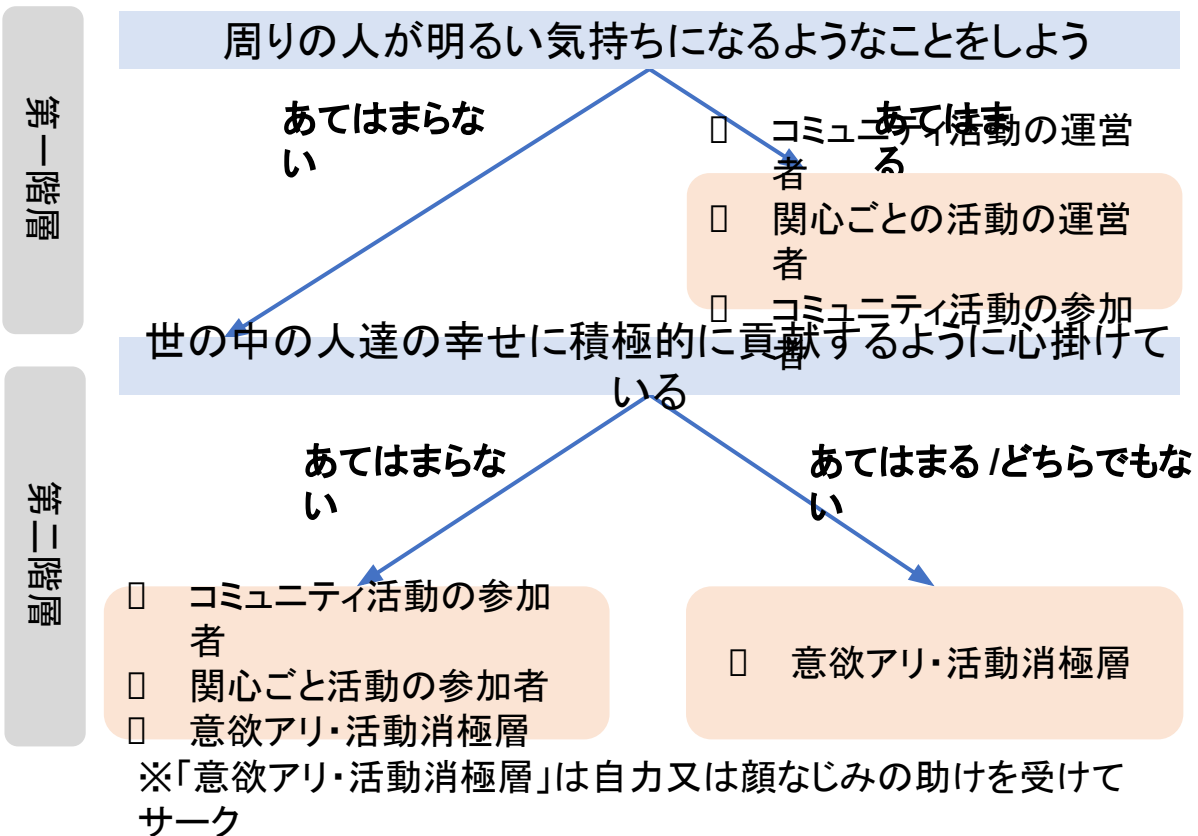
2. これまでの成果と令和7年度以降の計画 | ① DTによる支援ツール開発・拠点づくり

令和6年度は、加賀松が丘のデータに基づくプロトタイピングを実施。

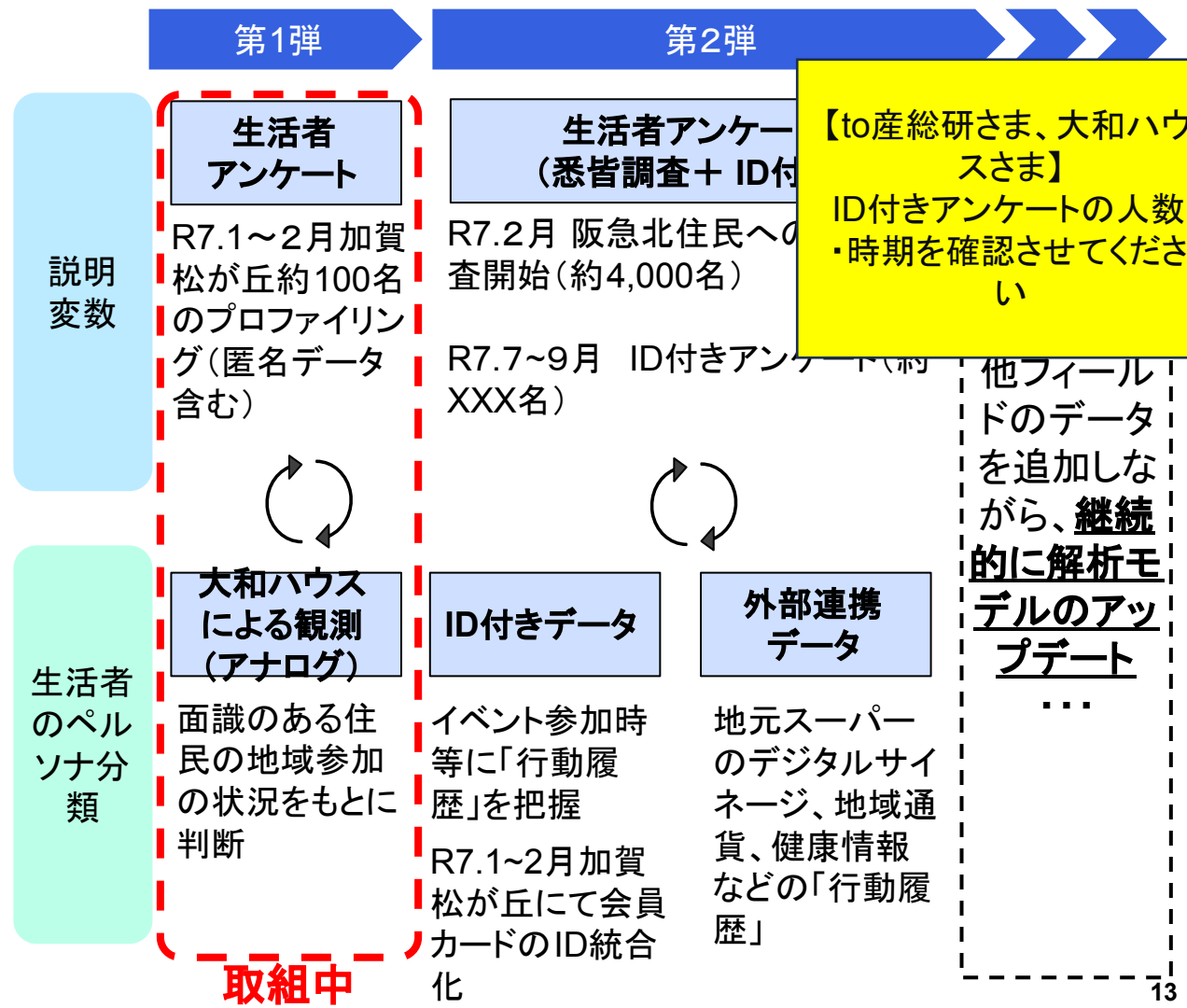
令和7年度は、ID付きデータや外部連携データを統合して解析モデルの精度を高める。

生活者デジタルツイン“プロトタイピング”

加賀松ヶ丘のデータ(100名)に振られた、ペルソナ分類に基づき決定木を構築
→葉の部分をつまみやすく集約化

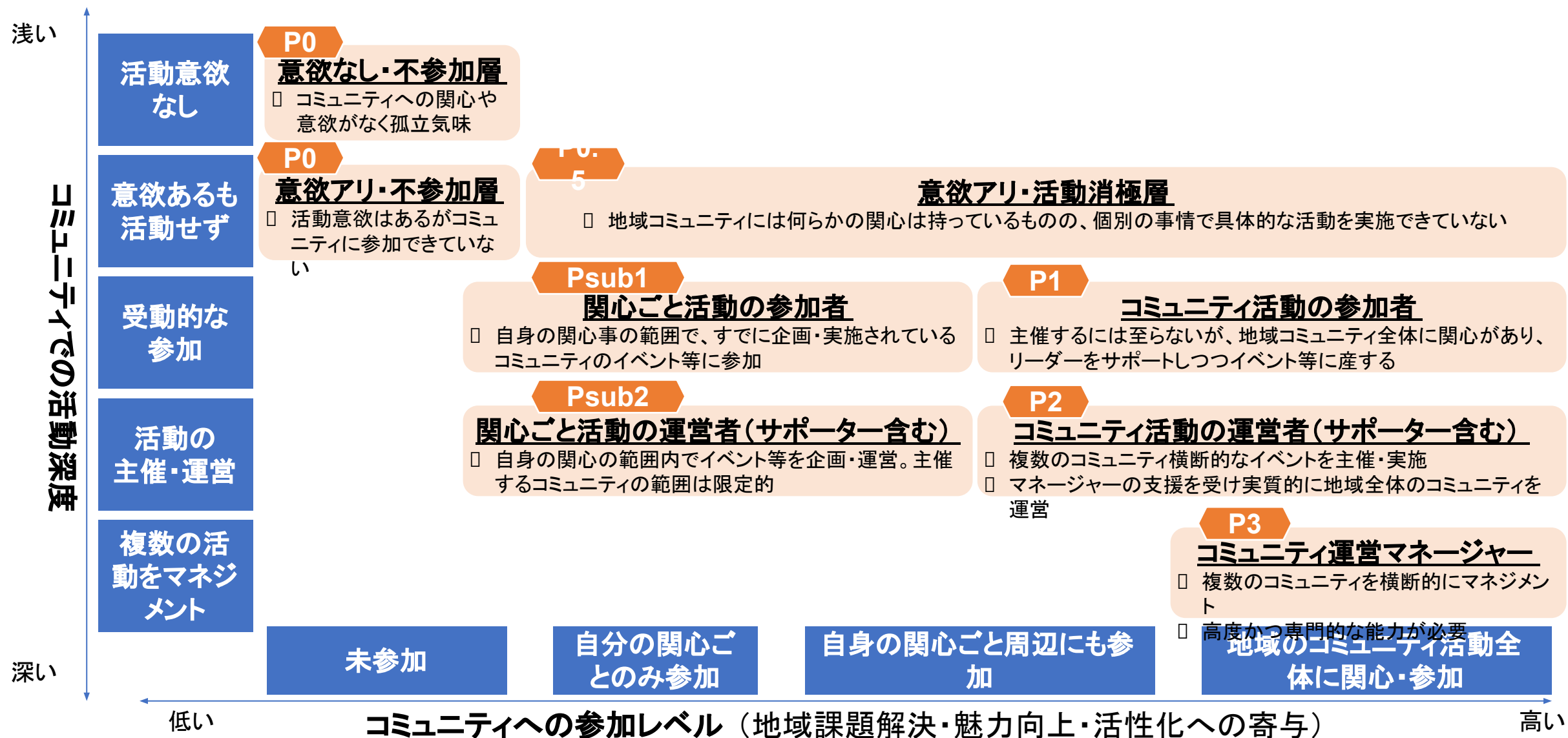


生活者デジタルツインの“構築ステップ”



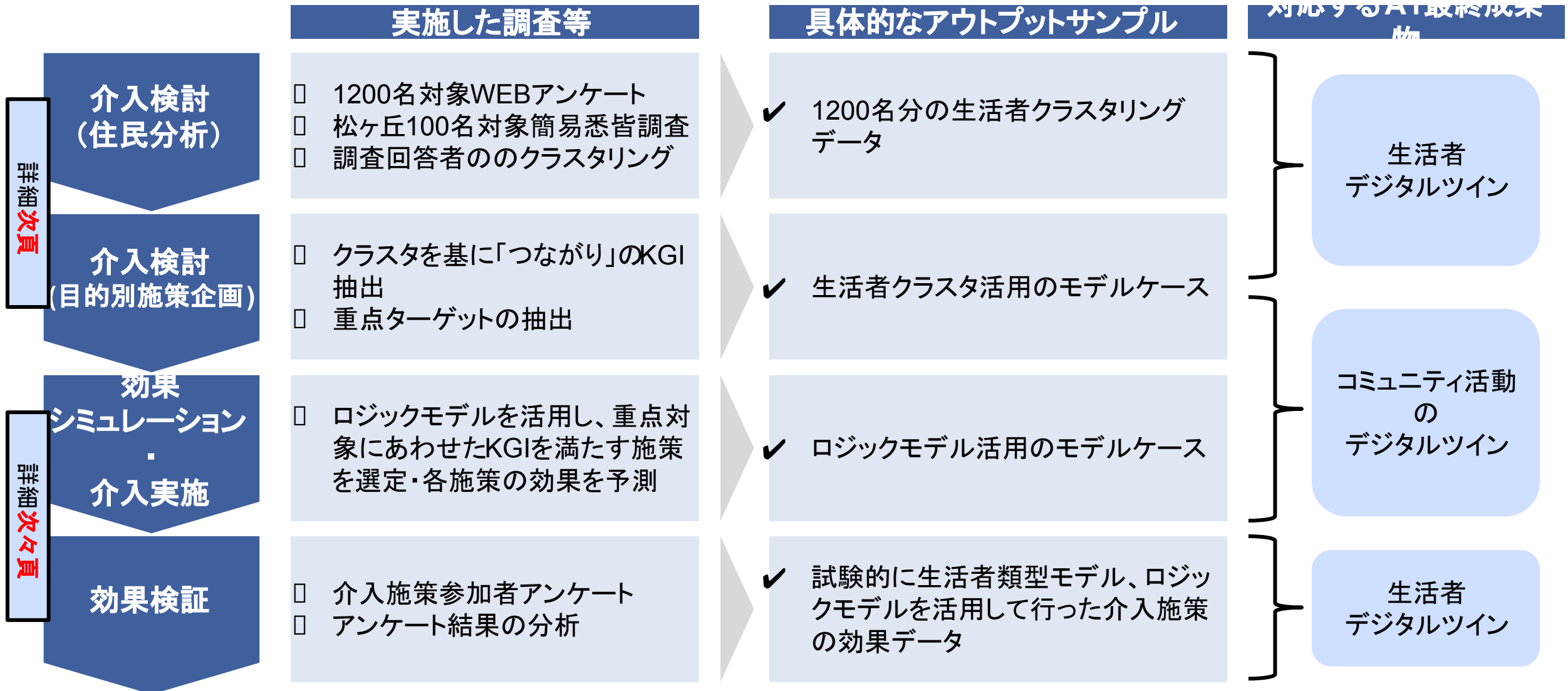
(参考)コミュニティにおける役割ごとのペルソナ分類

地域コミュニティにおける活動の強度や、コミュニティへの参加状況をもとに住民を分類することで、それぞれの立ち位置、役割、必要なアプローチ手法が明確となる



(参考) デジタルツインのサンプル | 令和 6年度のDTの構築・運用の試行の全体像

- デジタルツインを**実際に運用**する際のフローに即して、**簡易的に調査**等を行った
- 簡易的な調査をもとに、**デジタルツインによって生み出されるアウトプットのサンプル**を得た



(参考) デジタルツインのサンプル | 介入検討(住民分析)・介入検討(施策企画)

- クラスタ作成、KGI抽出、キーターゲット抽出といった、生活者デジタルツインによって実現されるアウトプットのモデルケースを実施
- 加賀松ヶ丘団地におけるKGIとキーターゲットの抽出に成功

調査目的

- 介入施策の対象となる住民のクラスタ作成
- クラスタリングに基づく適切なKGIの抽出
- KGI達成のキーとなるクラスタ群の抽出

調査手法

住民クラスタ作成

- 1200名対象webアンケート調査
- 1200名の特徴抽出 → クラスタリング

つながりKPI抽出

- 100名対象簡易悉皆調査実施
- 悉皆データの分析により加賀における「つながり」KPI抽出

キークラスタ群抽出

- 加賀松ヶ丘住民100名の中で、地域全体のKGI達成への影響が大きいクラスタ群を特定

アウトプットサンプル

住民クラスタ作成 □ 計7種類のクラスタ群を抽出

| | 人数(人) | 平均年齢(歳) | 女性比(%) | 地域行事への参加の割合(%) | 地域行事への参加の意欲割合(%) | 社会参加の割合(%) | 社会参加の意欲割合(%) | 各クラスタの特徴 |
|------|-------|---------|--------|----------------|------------------|------------|--------------|----------------------|
| Z001 | 265 | 58.2 | 52.5 | 21.9 | 24.9 | 65.3 | ☆74.3 | 地域が信頼でき、相談できる人もいる |
| Z002 | 135 | 49.8 | 60.7 | ☆23.0 | ☆25.2 | 64.4 | 81.5 | 世代間の交流が多く頼れる人がいる |
| Z003 | 151 | 45.6 | 53.0 | ☆3.31 | 17.2 | 51.7 | 85.4 | 居住地に愛着なして頼れる人もいない |
| Z004 | 56 | 42.2 | 37.5 | 14.3 | 19.6 | ☆75.0 | ☆92.9 | 外交的だが、自分の役割を果たせていない? |
| Z005 | 164 | 47.5 | 50.6 | 4.88 | 18.3 | ☆39.0 | 86.0 | 活発でない・親しいと思える人なし |
| Z006 | 281 | 49.9 | 41.6 | 11.0 | ☆16.7 | 52.3 | 78.3 | どちらともいえないを選択 |
| Z007 | 232 | 62.6 | 51.7 | 9.05 | 17.7 | 48.3 | 80.6 | 冷静・人の助けに依存しない |
| 全体 | 1,284 | 52.7 | 50.0 | 12.6 | 19.9 | 54.8 | 80.7 | |

7種類クラスタを参考に、松ヶ丘の調査データに最適なクラスタ軸と類型数を決定

つながり KPI抽出

- クラスタ軸を2軸4類型で再設定(左下図)
- 「名前を知っている人が増えること」がつながりの KPIと判明

| ※分子=地域活動への参加者数内で名前を知っている人数 | 地域の一員と | |
|----------------------------|------------|-------------|
| | あまり思わない | 思う |
| 3人未満 | 0/6 = 0% | 1/6 = 16% |
| 3人以上 | 4/19 = 21% | 34/59 = 57% |

地域内で名前を知っている人数が地域への帰属意識と実際の活動参加率に大きく影響している

キークラスタ群抽出

- 30~49歳の住民へのアプローチが効果的と判明

| | 年齢(30未満) | 年齢(30-49) | 年齢(50-64) | 年齢(65-) |
|-------------|----------|-----------|-----------|---------|
| 地域行事に興味なし人数 | 0 | 8 | 1 | 9 |
| 総数 | 2 | 32 | 20 | 38 |
| 割合 | 0% | 25% | 5% | 24% |

(参考) デジタルツインのサンプル | 効果シミュレーション・介入実施・効果検証

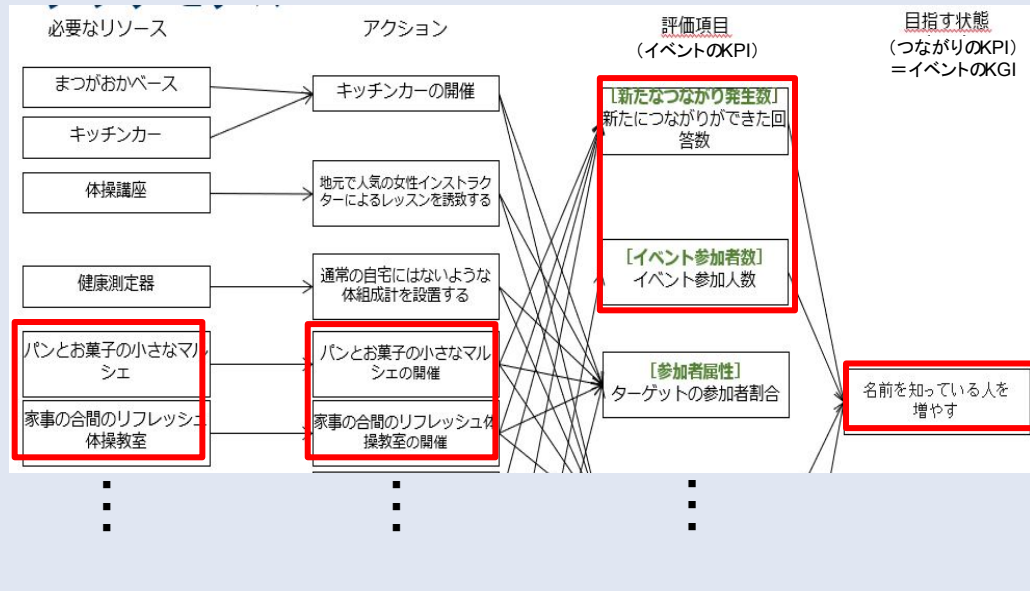
- 前頁で導出した介入のKGIと介入ターゲットを基に、**ロジックモデル**を用いて**効果的なイベントの仮説**を導出
- 実際に**仮説に基づく介入施策(イベント)**を実施し、その結果をレビューしたところ、**仮説どおりの効果が確認**できたほか、**データによる気づき**が幾つか得られた

介入の仮説 (30~50歳女性をターゲットに設定)

- 加賀松ヶ丘キータargetである**30~50歳の女性**は、**食・健康・美容**に対して**関心**があるのではないかと
- ターゲットは、**家族と一緒に参加できるイベント**に**積極的に参加する**のではないかと

仮説導出手法

- ロジックモデルを活用して**つながりのKPIから逆算的に効果的なイベント**を導出する



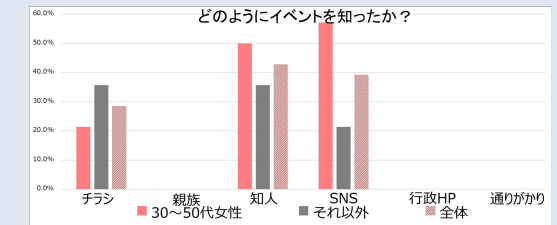
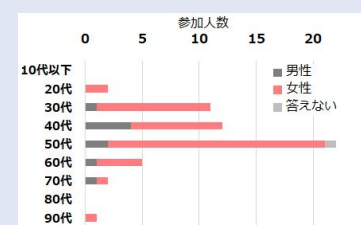
仮説に基づく介入実施・効果検証

実施介入施策

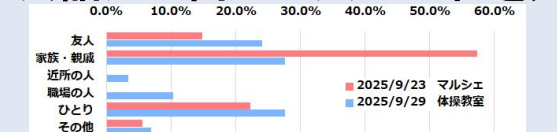
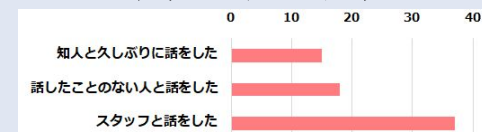
- 「食」に対応するイベントとして、**家族と参加できる「パンとお菓子のマルシェ」、「キッチンカー」**を実施
- 「健康・美容」に対応するイベントとして**「健康スタジオ」**を実施

介入結果評価

- 仮説どおりの効果を確認** (30~50歳の女性家族連れが相対的に高い参加率・満足度)
- (気づき)ターゲットの集客には**口コミのほかSNSが重要と判明**
⇒**ロジックモデルKPIにSNSのインプレッション数を追加**



- (気づき)参加者は来場者ではなく**スタッフと最も話す**と判明
⇒**ロジックモデルアクションに会話力の高いスタッフ配置を追加**



2. これまでの成果と令和7年度以降の計画 | ① DTによる支援ツール開発・拠点づくり

- コミュニティ運営者は、DTを活用した支援ツールを用い、イベントの企画から効果検証まで伴走的な支援を得ることが可能
- アプリケーションは UIが簡明に設計されており、特別な知識や経験なしに運用することが可能

| | 介入検討 | 効果シミュレーション | 介入実施 | 効果検証 |
|----------------|---|--|--|--|
| 現状と課題 (ペイン) | <ul style="list-style-type: none"> 効果的なイベント設計は特殊な知見がないと困難 イベント等のKPI/KGIをユーザが自力で設定する必要 | <ul style="list-style-type: none"> イベントが地域住民の性質に対して効果的かは肌感覚で確認するほかない 来場者数や属性の予測は困難 | <ul style="list-style-type: none"> フィジカル空間の告知以外の手法検討が困難 ターゲットへの効果的周知の仕掛け方がわからない場合が多い | <ul style="list-style-type: none"> イベント実施後の「気づき」のフィードバックが行われない 成功した要因が数値的に検証できない |

| DT活用ツール仕様イメージ | ユーザーインターフェース | イベントレコメンド | 来場者シミュレーション | 集客補助 (住民ユーザ視点の画面) | 効果検証用アンケート自動生成 |
|---------------|--------------|--|---|--|--|
| | | 機能 | バックエンドソフトウェア | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 住民分析結果を表示 イベント企画者に目的別介入施策・イベントをレコメンド 介入施策ライブラリ | <ul style="list-style-type: none"> イベントと生活者クラスタの親和性を推定、推定来場者層を通知 生活者クラスタモデル クラスタデータから抽出したKGI、キーターゲット | <ul style="list-style-type: none"> 推定来場者やターゲットに対して個別に参加を促す通知を发出 生活者クラスタモデル クラスタデータから抽出したKGI、キーターゲット | <ul style="list-style-type: none"> 効果検証アンケートを自動生成、自動分析 介入施策ライブラリ アンケート自動生成 ダッシュボード作成 |

2. これまでの成果と令和7年度以降の計画 | ① DTによる支援ツール開発・拠点づくり

- 令和7年度は、①データの質・量を高めた技術開発、②サービス開発のための PoC、③他地域・大和ハウス以外のフィールドとの比較検証、④サブ課題 C1との連携の検討を行う予定。

令和7年度の計画

| | | |
|------------------------|---------------------------------------|---|
| 技術開発 | データの質・量を高めて(悉皆調査・ID統合)、 技術の完成度を高める | ○年○月～○月 阪急北○○調査 ○年○月～○月 XXX ○年○月～○月 XXX |
| サービス開発 | 介入施策を拡充し・POC(自律性・寛容性向上 効果検証)を繰り返す | ○年○月～○月 阪急北○○調査 ○年○月～○月 XXX ○年○月～○月 XXX |
| サステナブルな スキームの構 築 | 他地域・大和ハウスのリブネスタウン以外の フィールドと比較検証する | |
| 他分野への応 用 ・拡張 | 阪南こども園にて実施し、C1との連携も検討 する | |

2. これまでの成果と令和7年度以降の計画 | ② ガイドライン

- コミュニティ運営における様々な利用シーンに応じて、コンテンツを参照できるようなガイドラインの作成を企図。
- 令和6年度は、ガイドラインの章立ての設計、ユースケース情報取得の連携協力体制構築を実施。



取り組みのキッカケ

【R6年度進捗】

- ・ガイドラインの時間軸設定完了
- ・対象コミュニティにガイドラインを適応させるための条件検証済み (外形調査)

【課題】

- ・他の地域への有効性検証不足
- ・住民主体の中間法人運営に向けた仕組み検討。
- ・実装において「キッカケ」をどう創り出すか

【R7年度計画】

- ・地域と活用主体毎に適合できるガイドラインプロトタイプ作成
- ・有効性確認として袋井市で検証
- ・「キッカケ」創出の検討

『コミュニティ支援中間法人』を支援する仕組みを作り、コミュニティの包摂性を高める活動の定着・浸透を図る

コミュニティ支援
中間法人



- 地域毎に組成し、「住民」が主体の集団
- 地域の「つながり」を生み・育て・広げる役割
- 法人格アリ(一社、株式、NPOなど)
- 地域再生法の「地域再生推進法人」の認定を得る

全国の中間法人を支援する仕組み(全国組織)

- ガイドライン・ノウハウ提供
- データ基盤
- 人材育成 など



【R6年度進捗】

- 持続的な運営手段検討
 - i. 住民活動データ収集(12月時点)
(データ総数: 3,033人分)
 - ii. 拠点整備・運営の実施(3カ所)
 - iii. 住民主体運営に向けた活動
(共創スペースでの担い手育成)



【課題】

- 介入施策の効果検証と改善
- コミュニティの運営及び場の設えに
関するノウハウの拡充
- 現在の実証フィールド以外の団地
での有効性確認
- 担い手に求められる要件整理



【R7年度計画】

- 地域再生推進法人の認定
- 複数の地域で中間法人設立
に向けた活動実施。
- 中間法人に必要な共通機能・
スタミズ項目の整理・検証
- 地域の中間法人の活動をサ
ポートする全国組織の役割を模
索。

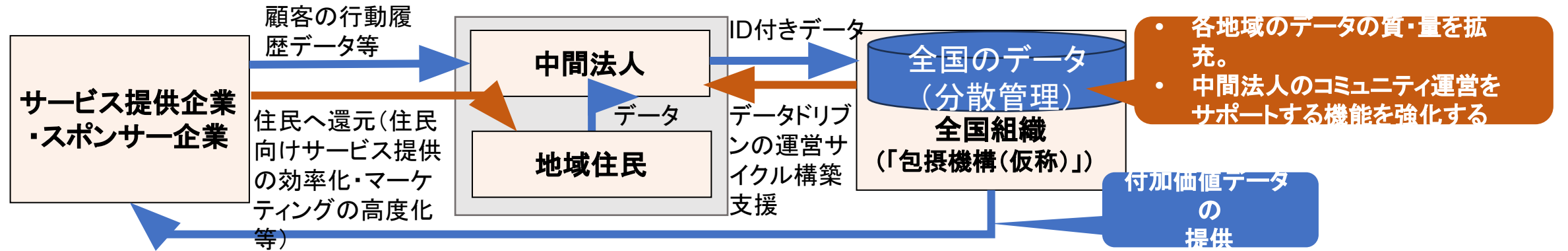
中間法人の設立実績(マッチングファンドの成果)

1. 緑が丘・青山ネオポリス 【一般社団法人】
2. 横浜上郷ネオポリス //

へ中間法人を展開

なお、令和6年4月に、「地域再生推進法人」の根拠となる改正地域再生法が公布され、同年10月に施行(GRL)

『データ活用モデル』の開発・環境整備により
全国各地のコミュニティ支援中間法人の運営を支援する



【R6年度進捗】

- ・AITech内にデータプラットフォームWGを設置
- <目的>
- ・データ活用、管理の在り方検討
 - ・データ活用ビジネスの創出
 - ・データ流通エコシステム構築検討
- <参加企業>
- タニタヘルスリンク・キーウェアソリューション、アマタホールディング

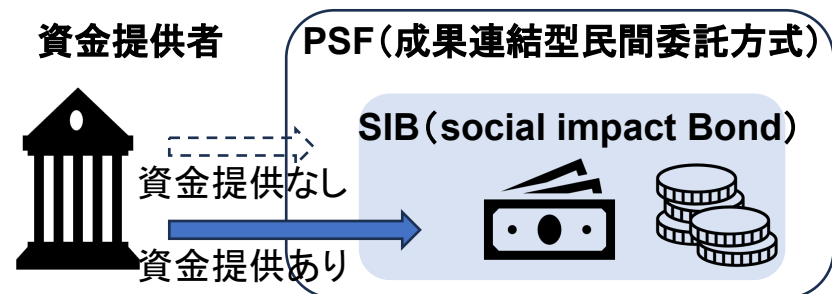
【課題】

- ・デジタルツインの構築を通じて得られるデータの活用策が不明確(そもそも、どんなデータが収集・活用可能なのか整理が必要)
- ・データ活用の対価として企業が費用負担するか不明確

【R7年度計画】

- 既存データ活用
- ・既存データのユースケース案検討
- ・各ユースケースの事業性検討
- 新規データ取得
- ・事業アイデアの創発
- ・データ取得方法やパートナー企業の探索

『デジタルツインを活用した PFS・SIB活用モデル』を構築し、民間企業の資金のみに依存しない持続可能なスキームを構築



- 民間企業のみで事業モデルを完結させるのではなく、公的機関・金融機関からの資金を活用することで、持続可能な事業モデルを確立
- 地域コミュニティにおける「つながりの効果」の経済的価値を評価
- デジタルツインによって、データを蓄積することで施策別の効果の定量化が可能

【R6年度進捗】

- ・自治体への適用開始
i. 袋井市
- ・「つながりの効果」に関する文献調査を実施

【課題】

- ・「つながりの効果」を介入施策ライブラリのロジックモデルに組み込む必要がある
- ・効果を定量化するためのデータ収集が必要
- ・PFS・SIBとして成立させるための課題・要件の確認が必要

【R7年度計画】

- ・介入施策ライブラリの更新
- ・データ収集 (ID付きデータや外部連携データの活用)
- ・PFS・SIB活用モデルの適用可能性の調査

2. これまでの成果と令和7年度以降の計画 | ④ 包摂指標

目的: コミュニティの包摂性の現状把握と介入の効果検証のための包摂性指標の開発

使い道①: コミュニティの網羅的な包摂性の現状把握
 使い道②: 得点の時間的推移の把握

進捗・実績

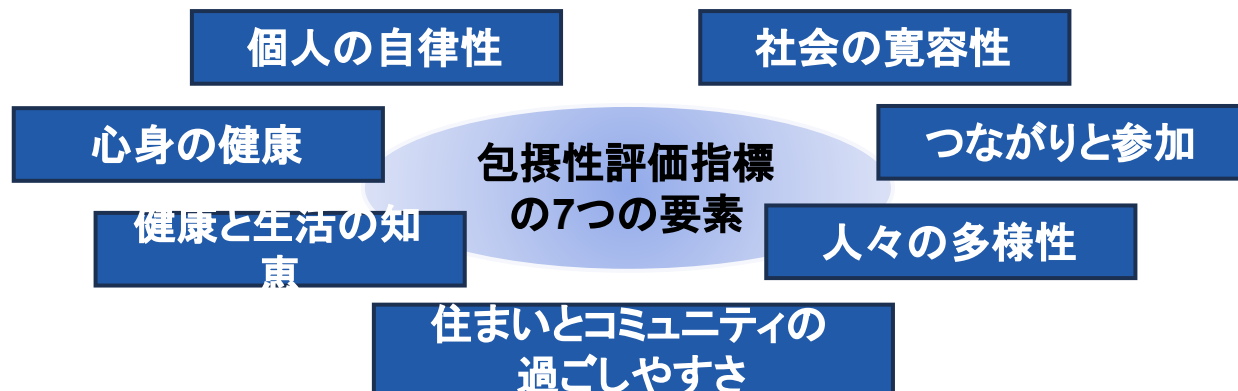
今後の計画

成果

包摂的な社会の定義

目指す社会
 属性の違いや、様々な価値観の違いがある中で、あらゆる人々が自らの価値観に従って生きつつも、緩やかに共生する社会

指標の構成要素の明確化



主観アンケートと包摂性に関連する客観的指標の項目リスト

次頁参照

開発プロセス

十分な信頼と妥当性検証

①統計学的な解析
エビデンスベースでの
検証

②専門家どうしの議論
コンセンサスベースでの
検証

③総合的な重みづけ
重要度割当調査

①指標の妥当性検証

サブ課題合同調査、自治体調査、企業調査

②使用目的に合わせた調整

・ビジュアルライゼーション
 ニーズに合わせたカスタマイズ、政策効果等をわかりやすく提示

③項目リストの作成と更新

想定した社会実装用ツール（評価ツール等）に実装するための「主観アンケート」と「客観評価指標」のDB化の推進

包摂性評価指標β版

要因構成(概念)測定項目(設問)重要度割当(総合点算出における重みづけ)一式

包摂性指標

評価システムへ 社会実装・普及

住まいとコミュニティ

の過ごしやすさ
住まいの安定性

- 住宅確保の容易さ
- 住宅の安全性

アクセシビリティ

- 法令・制度の有無
- 体制の有無
- 整備状況

自然環境の充実

- 緑地へのアクセス
- 気候
- 大気・水の質

社会資源の充実

- 医療・介護の関する資源
- 子育てに関する資源
- 教育に関する資源
- 文化・芸術に関する資源
- 地域のつながり促進する資源
- 健康増進関連の資源

人々の多様性

属性の多様さ

- セクシュアリティ(性自認、性的指向)
- 社会経済要因(学歴、収入、経済的余裕、生育歴)
- 配慮を要する状況

価値観の多様さ

- 政治的思想
- 宗教的思想
- 正義感
- 指向性(好み、物事の優先順位)

健康と生活の知恵

健康リテラシ

- ヘルスケア
- 疾病予防
- 健康増進

情報リテラシ

- 情報の信憑性の検証力
- 認知バイアス耐性
- 検索スキル

包摂性に関する知識

- 包摂性に関する用語の認知
- 要配慮状況に関する知識の正しさ
- 参加に向けた知識や経験

- コミュニティに関する知識
- コミュニティでの交流経験
- 参加への意欲

心身の健康

身体的健康

- 体力
- 睡眠
- 栄養状態

精神的健康

- 抑うつ
- 自己肯定感
- 心理的柔軟性

つながりと参加

他者とのつながりの量(ネットワーク)

- 付き合いの数
- 頼れる人の数

他者とのつながりの質

- 他者への信頼感
- 孤独感

コミュニティへの関与

- コミュニティ活動への参加
- コミュニティへの愛着

社会の寛容性

個人の寛容的行動

- 助ける・気遣う
- 手間を厭わない
- 多様性を尊重する
- 差別をしない

周囲の人々の寛容的行動

- よく会う人々の寛容さ
- よく会う人々の不寛容さ
- 地域の人々の寛容さ
- 地域の人々の不寛容さ

個人の自律性

個人の自律的行動

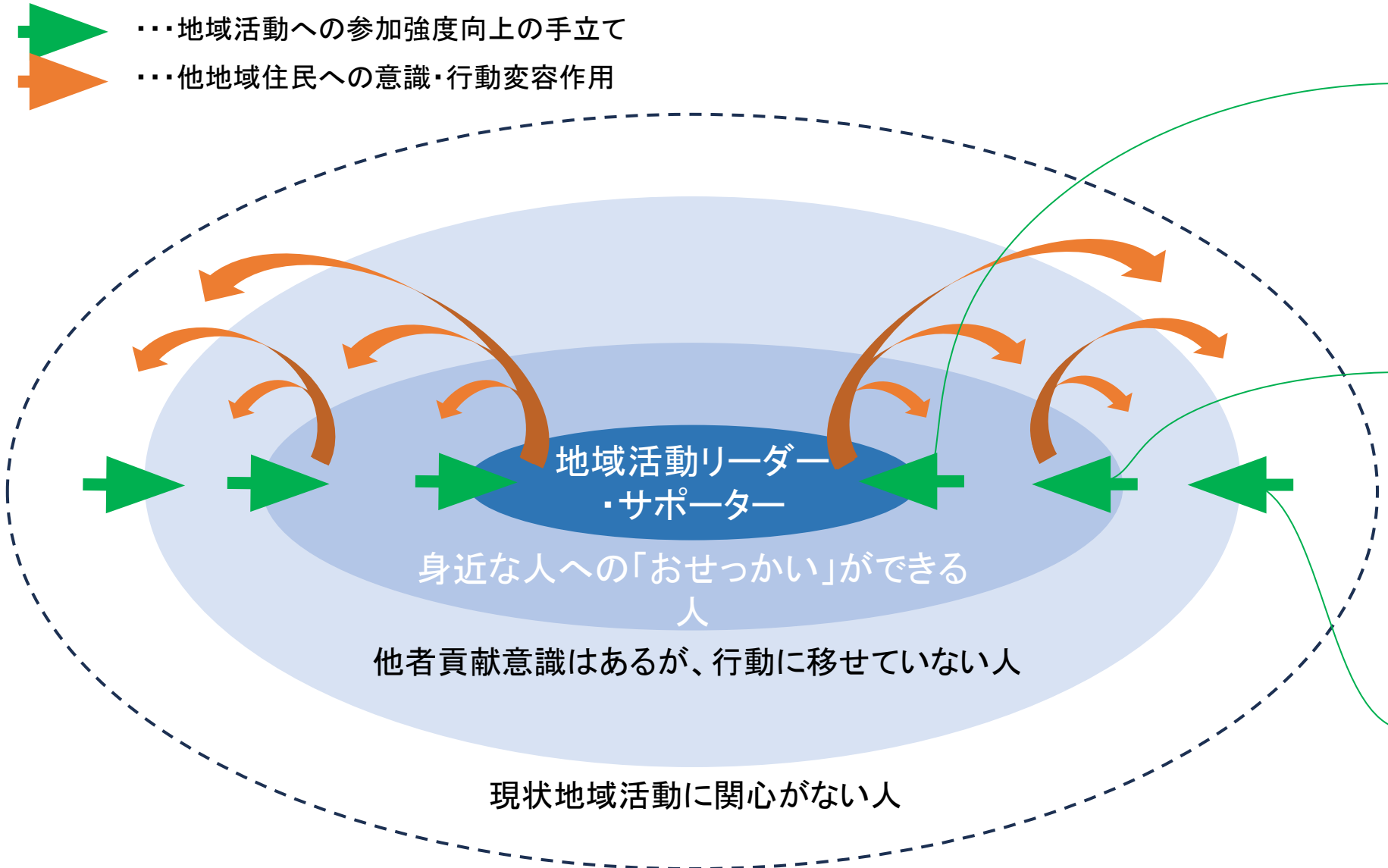
- 自己決定
- 役割の遂行
- 適度に他者を頼る
- 自分の価値基準を持つ

令和6年度β版完成予定

2. これまでの成果と令和7年度以降の計画 | ⑤ 人材育成PGM_全体像とスケジュール

令和7年度中に、無関心層含む地域全体の意識変容を促すため、「おせっかい層」を増やす「意識醸成 PGM」を優先開発する

プログラムの全体像



- ▶ …地域活動への参加強度向上の手立て
- ▶ …他地域住民への意識・行動変容作用

開発スケジュール感

- 地域運営の高度な専門性を培う「**担い手育成**」のプログラム
 - 専門知見を集積するため、令和**7年度以降**開発に着手
- 他者貢献意識を持つ人が**行動を実践に移すための「意識醸造」**のプログラム
 - 意識醸造プログラムの構成要素に**専門知見は含まれない**
 - 育成が比較的容易な一方、**無関心層や未行動層への意識・行動変容効果について学術的な根拠**
 - 以上を踏まえ、**R7年度までに優先的にPGM** [→次頁詳細](#)
- 無関心層はその把握・PGMのための招集が難しく、**直接的な意識・行動変容のアプローチが困難**
 - デジタルツインを活用した介入施策の実施等、**他A1プロダクトによる行動変容**により対応
 - 「おせっかい層」による間接的

2. これまでの成果と令和7年度以降の計画 | ⑤ 人材育成PGM

令和7年2月に「意識醸成プログラム」に関する有識者会議を開催。委員からの知見に基づき、意識醸成プログラム案を作成。

プログラムの概要・有識者会議の開催

プログラムの概要

問題意識

孤独・孤立が広がる中、「つながり」を生むための地域住民意識醸造が必要

プログラムの目的

包摂性を持ったつながりのある地域コミュニティの創出

プログラム内容

- ・ 地域への「ちょっとおせっかい」に関心がある人を対象
- ・ おせっかいに必要な「インフルエンス力」等の4能力を強化

有識者会議の開催

R7,1/15~1/17

R7,2/5及び2/14

事前ヒアリング

本会議

- 大野裕先生、齋藤光先生に基礎的なプログラム構成についてヒアリング
- 都市政策や精神科医等多方面の専門家にヒアリング
- 意識を醸造する具体的なワーク、「おせっかい」の内発的動機等、プログラム設計に貢献する多数の示唆を得た

意識醸成プログラムへの反映

意識醸成プログラムのカリキュラム（案）

作成中



- 対象者：地域にいる「ちょっとおせっかい」に興味がある人 数十名
- 対象フィールド：大和ハウスが主催するイベントに組み込む@所沢ネオポリス、阪南ネオポリスから2フィールド（最終調整中）
- プログラム時間：約90分程度（要検討）

| | タイトル | 形式 | 到達目標 | 内容 |
|--------|----------------------------------|--------------------|---|--|
| オープニング | 開会挨拶 | - | プログラムの目的を理解し、参加意欲を高める | <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラム趣旨説明 ・ 自己紹介やグループ分け |
| セッション1 | 100歳時代！ 幸せな毎日の秘訣とは | 動画 ミニレクチャー | 自分がイキイキ元気に幸せに過ごせるコツを知る | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会参加し・活動し・繋がりをもつことで自身の心身の健康度が高まる方法 |
| セッション2 | ご近所で広がる 対話の輪！ 聞く力と伝える力を磨こう | ミニレクチャー グループワーク | 寛容な社会とは何かを理解する 「みんな違う」のは当たり前ということを理解する | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「みんな違ってみんないい」ことを体感 |
| セッション3 | ご近所の魅力 発見とつながりづくり | ミニレクチャー グループワーク | 相手の心を理解し・共感する聞き方・話し方を効果的に伝える力を養い、活動内容を適切に共有できるようにする | <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞く力・共感力を高めるコミュニケーション法 ・ 効果の高い情報伝達手段の方法 ・ 共感力が高くインフルエンス力が高い会話法の実技 |
| クロージング | 振り返り、認定証の授与、閉会挨拶 | グループワーク | 地域への愛着と誇り・社会貢献意識を高め、コミュニティでの個を尊重しながら協働の意識を高める | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の魅力を発見 ・ 地域で伝承されていることを伝える |
| | アンケート回答 | - | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 感想や意気込みを発表、認定証授与 など |

地域コミュニティにおける困りごと



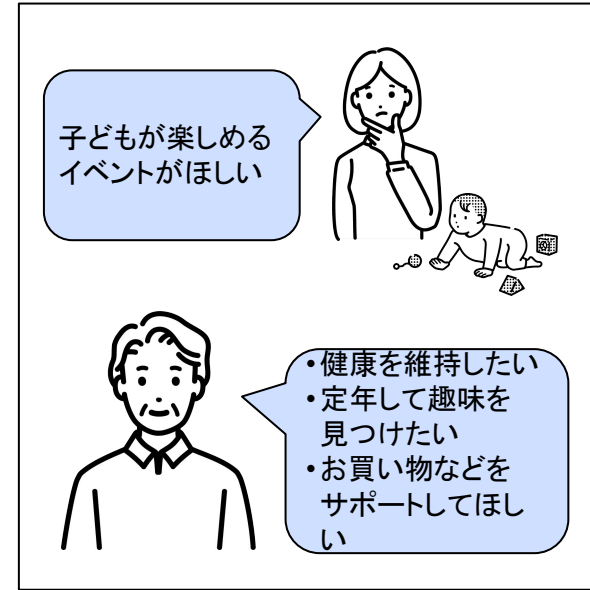
コミュニティマネージャー

イベントを開催しようと思うが、
どんな内容なら住民や、活動に
協力してくれるサポーターが集ま
るかがわからない



サポーター

自分と同じ興味を持つ人に出
会いたいし、自分のスキルや得
意なことを活かしたい、どのよう
に始めたらよいかかわからない

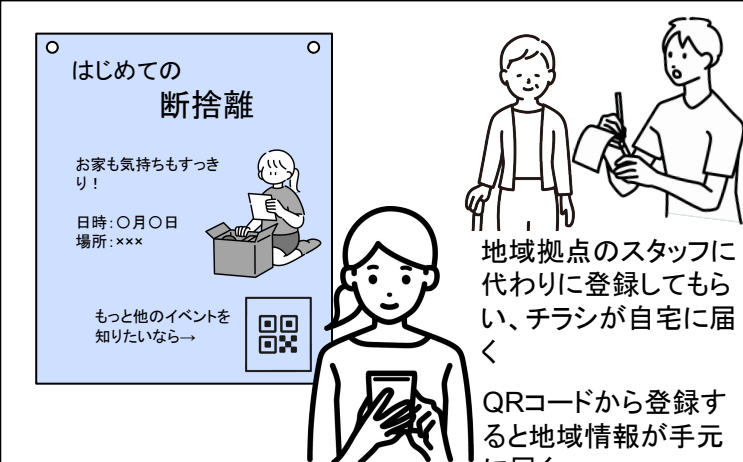


住民

住民はそれぞれの生活スタイル
や関心に応じて、同じ興味を持
つ人と出会ったり、困ったことを
助けてもらったりしたい

住民交流支援

サービスを知る・登録する



はじめての断捨離

お家も気持ちもすっきり!

日時:○月○日
場所:xxx

もっと他のイベントを知りたいなら→

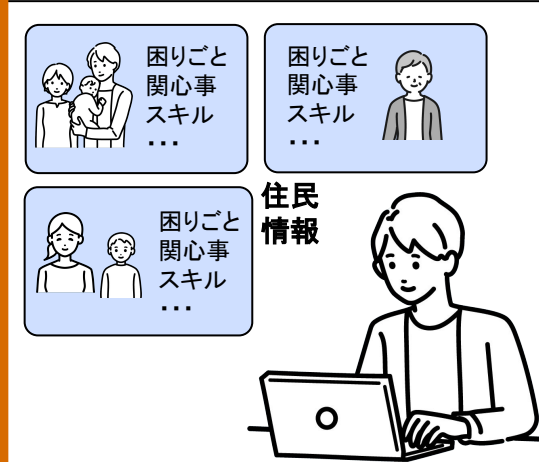
地域拠点のスタッフに代わりに登録してもらい、チラシが自宅に届く

QRコードから登録すると地域情報が手元に届く

イベントのチラシや地域活動拠点で、様々な地域活動情報が知れるサービスの存在を知り、登録する

1

住民の困りごと・関心情報の集約



困りごと・関心事スキル ...

困りごと・関心事スキル ...

困りごと・関心事スキル ...


住民情報

地域活動を通じて、住民の困りごと、関心などの声を集め、蓄積する

2

については、以降に詳細説明あり

地域でのイベント企画



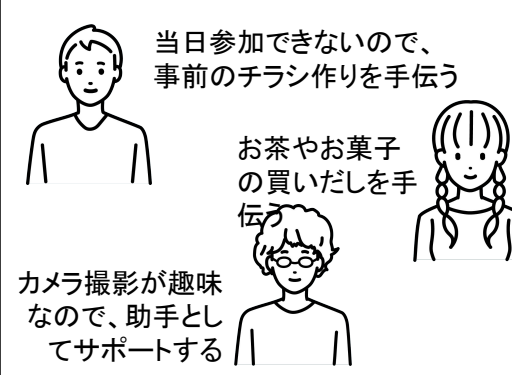
「おもちゃ・子供用品のフリマ」

困りごとや関心事の分布に基づいたイベント企画

蓄積した情報を参考に、イベント企画のアドバイスがもらえる。

3

サポーターの募集



当日参加できないので、事前のチラシ作りを手伝う


お茶やお菓子の買だしを手伝う

カメラ撮影が趣味なので、助手としてサポートする

手を上げやすいタスク単位に分解されているので、自分のスキルや取れる時間に応じて、サポーターとして関わることができる

4

参加者の周知



電話で

イベントの周知・募集

地域活動拠点のスタッフ経由で

住民の関心事に合わせてサービスがイベントを勧める。住民はネット、電話、地域活動拠点のスタッフ経由で申し込みできる

5

イベントの開催



人々のつながり

交流を通じて、地域のつながりが広がり、みなさんの関心や地域のリソースが見えてくる

6

よろず相談支援

については、以降に詳細説明あり

サポートの申し込み

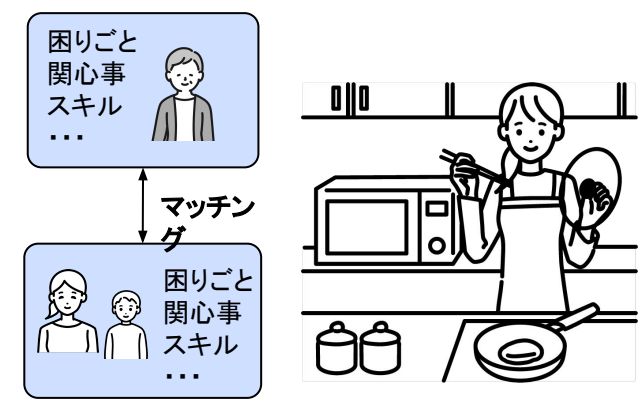


足の調子が悪く立つのがつらいのですが、家事を助けてもらえませんか？

前のイベントで知り合った〇〇さんが困っている。助けたい！

困りごとを抱えている住民が、アプリ、電話など好きな手段でサポートを依頼できる
地域で困っていることがアプリで見れて、いつでも手を挙げる事ができる

困りごとのサポート



困りごと 関心事 スキル ...

マッチング

困りごと 関心事 スキル ...

住民と支援してくれるサポーターをサービスがマッチングする

サポーターのレベルアップ

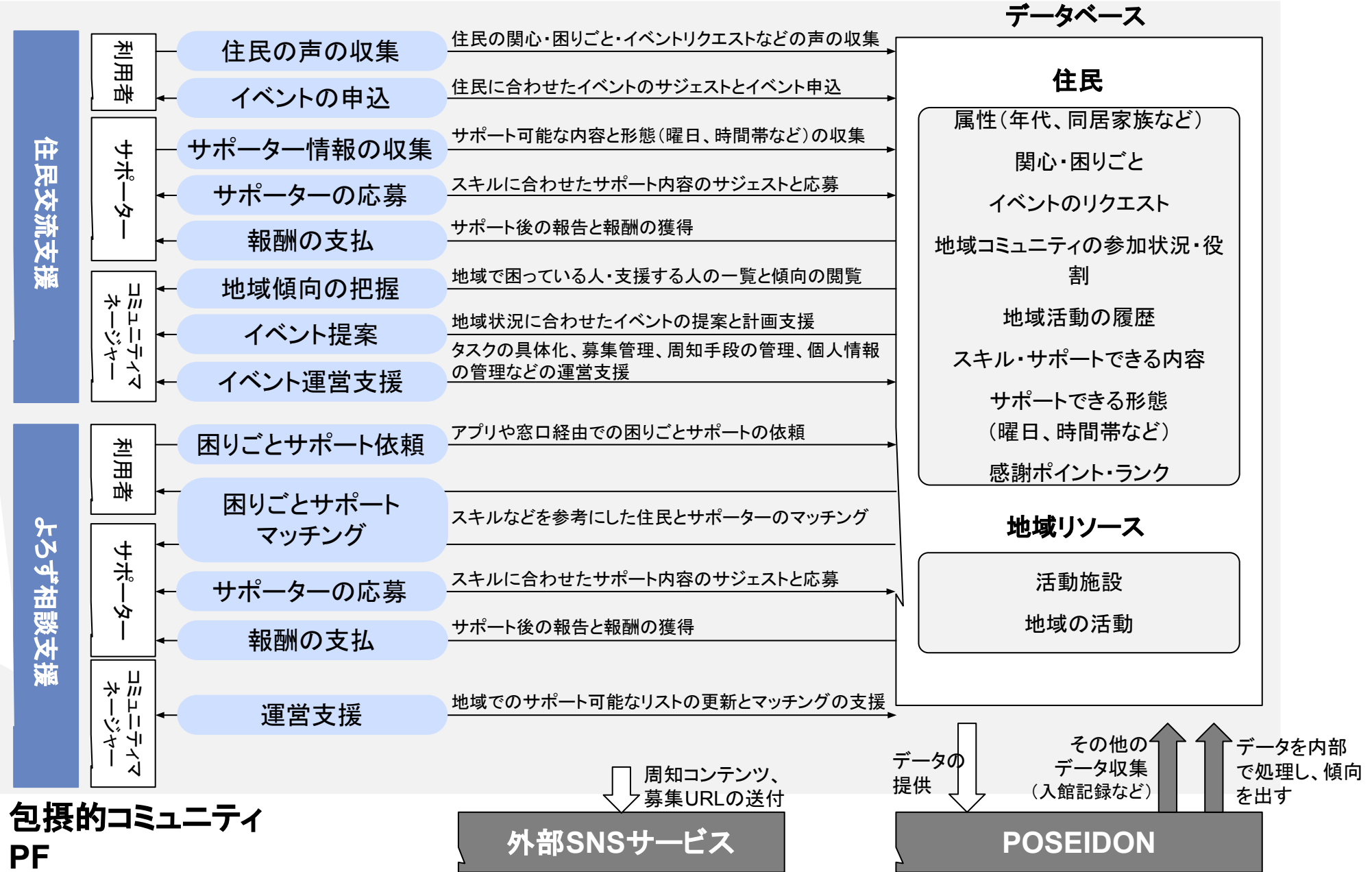


感謝ポイント: ♡ 10ポイント

サポーターランク: [progress bar]

サポーターは感謝ポイントを得られ、活動を重ねることでランクが上がる

包摂的コミュニティ PFの全体像



バリュープロポジションでのキーポイント

サポーターやコミュニティマネージャーなど運営スタッフが参加者から聞いたことを簡単に入力し蓄積し分析する機能があることで、地域でのちょっとした困りごとや人々の得意なことなど資源を収集し、分析できるようにしている

具体的には・・・

- ・ サポーターなど運営スタッフは、イベントや地域拠点での住民参加者との会話で気づいた**個人の困りごとや得意なことを簡単にその場でスマホの画面を開いて簡単に入力**ができる
- ・ 様々な人が入力した結果が蓄積されると、そのデータをシステムが自動で分析
- ・ コミュニティマネージャーは、ダッシュボードを見ながら、**地区ごとの困りごとの分析や、支援意向のある人々の分析、人々の繋がり分析、参加者数や問題解決数の分析などの観点で、まちの状況を効率的に把握**することができる

解決される課題

- ・ 地域の困りごとや資源を記録するのは現状アナログな手法であり、効率的でない。また個人情報保護の観点で個別の団体で管理体制を作るのが難しい
- ・ 住民参加者の方に、アンケート入力を都度お願いするのは負担が大きい

ストーリーボードの対応イメージ

住民の困りごと・関心情報の集約



イベントの開催



| | |
|--------|-------------------------------------|
| 画面イメージ | ①まちの記録(コミュニティマネージャー・サポーター向け) |
| 主な機能 | イベントや助け合いにおいて運営側が住民の困りごとなどを簡単に記録できる |

× サポーターレポート

ここでは、コミュニティの様子を記録できます

サポート種別: イベントサポート
イベントタイトル: お助け DIY & お片付け相談会
日時: 2月7日(金) 10:00-12:00
対象者: 選択
どのようなことに喜ばれましたか? 関心がありましたか?

お話の中で特に気になる困りごとはありませんか?


こんなイベントが欲しいというリクエストはありましたか?

実は得意なこと・スキルがあることがわかりましたか?

サポーターレポートを送信する

| | |
|--------|--|
| 画面イメージ | ①地域傾向の確認(困りごと) |
| 主な機能 | コミュニティマネージャーが地域の困りごとを丁目で把握できる。属性タグで困りごとを絞って一覧表示できる |

コミュニティ管理



ホーム 分析結果 分析に基づいたイベント提案

周知

2025年1月 までに収集した参加者の声に基づいた分析結果

地域の困りごと ▼

属性 すべて シニア 子育て 共働き 学生 一人暮らし 男性 女性 +



二丁目: 子育て+女性

#すべて #託児 #料理 #学習指導 #産後ケア
#乳児ケア #片付け #修理

- ① ○○さん #託児
2月3日に下の子の定期健診があるため、上の子(小学校1年生)の面倒を見ていただける方を探しています。
- ② ○○さん #乳児ケア
3か月の子どもがいて、最近急に夜泣きがひどく、何をしても泣き止まりません。どうしたらよいかを教えてください。
- ③ ○○さん #学習指導
中学校1年生の子どもがいます。次の期末試験までに国語と数学の指導をお願いできる方を探しています。
- ⑦ ○○さん #修理
子ども用自転車のタイヤがパックしてしまいました。修理していただける方を探しています。
- ⑧ ○○さん #料理
xxx xxx xxx xxx xxx xxx xxx xxx
xxx xxx xxx xxx。
- ⑨ ○○さん #片付け

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 画面イメージ | ①地域傾向の確認(困りごと) |
| 主な機能 | コミュニティマネージャーが地域での主な困りごとの数を丸の大小で把握できる |

コミュニティ管理

ホーム
周知

▼地域
分析
サポートリスト
▶参加者
▶サポーター
▶イベント
+

分析結果 分析に基づいたイベント提案

2025年1月 までに収集した参加者の声に基づいた分析結果

地域の困りごと ▼


属性 すべて シニア 子育て 共働き 学生 一人暮らし 男性 女性 +

二丁目: 子育て+女性
#すべて #託児 #料理 #学習指導 #産後ケア
#乳児ケア #片付け #修理

- ① ○○さん #託児
2月3日に下の子の定期健診があるため、上の子(小学校1年生)の面倒を見ていただける方を探しています。
- ⑦ ○○さん #託児
xxx xxx xxx xxx xxx xxx xxx xxx
xxx xxx xxx xxx。
- ⑧ ○○さん #託児
xxx xxx xxx xxx xxx xxx xxx xxx
xxx xxx xxx xxx。
- ⑨ ○○さん #託児
xxx xxx xxx xxx xxx xxx xxx xxx
xxx xxx xxx xxx。
- ⑱ ○○さん #託児
xxx xxx xxx xxx xxx xxx xxx xxx
xxx xxx xxx xxx。
- ⑳ ○○さん #託児

| | |
|--------|--|
| 画面イメージ | ①地域傾向の確認(地域のつながり) |
| 主な機能 | 地域住民同士のつながりを俯瞰的に確認できる。属性のタグから、多世代交流の状況も把握できる |

コミュニティ管理



ホーム
周知

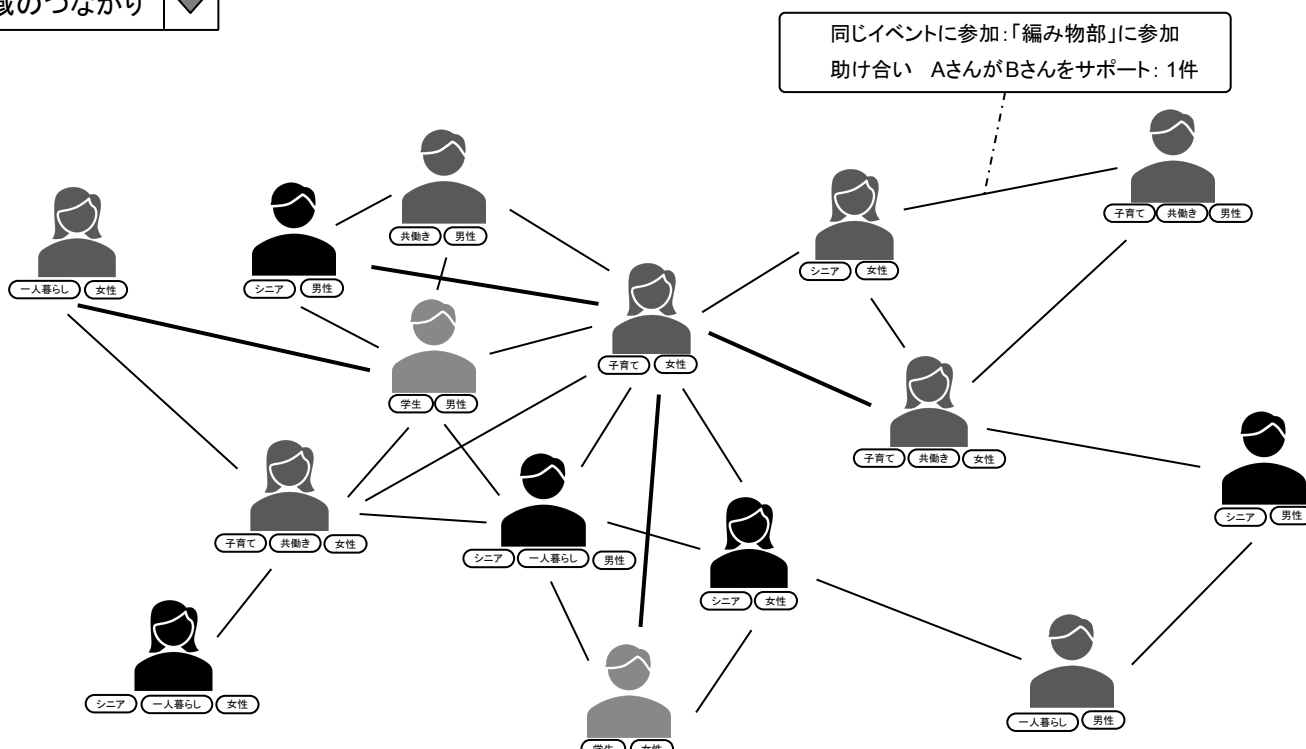
▼地域

- 分析
- サポートリスト
- ▶参加者
- ▶サポーター
- ▶イベント+

分析結果 分析に基づいたイベント提案

2025年1月 までに収集した参加者の声に基づいた分析結果

地域のつながり ▼



同じイベントに参加:「編み物部」に参加
助け合い AさんがBさんをサポート: 1件

| | |
|--------|--|
| 画面イメージ | ①地域傾向の確認(参加者のアクティブ度) |
| 主な機能 | 交流活動や助け合いへの参加状況から、参加者の地域活動への参加状況を把握できる |

コミュニティ管理

ホーム 分析結果 分析に基づいたイベント提案

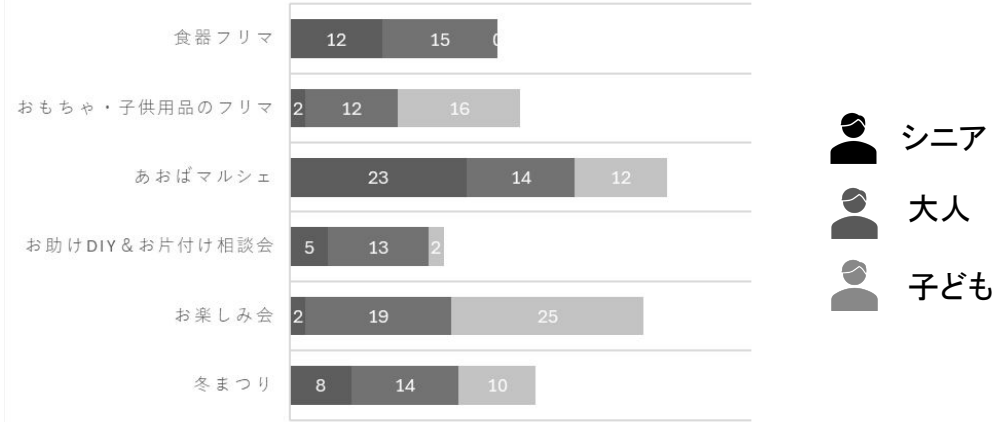
周知

▼地域

- 分析
- サポートリスト
- ▶参加者
- ▶サポーター
- ▶イベント+

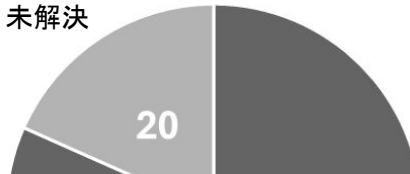
活動アクティブ度 ▼

参加者の数の推移



| 活動 | シニア | 大人 | 子ども |
|----------------|-----|----|-----|
| 食器フリマ | 12 | 15 | 0 |
| おもちゃ・子供用品のフリマ | 2 | 12 | 16 |
| あおばマルシェ | 23 | 14 | 12 |
| お助けDIY&お片付け相談会 | 5 | 13 | 2 |
| お楽しみ会 | 2 | 19 | 25 |
| 冬まつり | 8 | 14 | 10 |

助け合いの解決率



| 解決率 | 割合 |
|-----|-----|
| 解決 | 80% |
| 未解決 | 20% |

バリュープロポジションでのキーポイント

収集した情報をもとに、交流イベントなどの企画のヒントを提示する。交流イベントは高齢者や子育て世代の課題を地域の人々の資源を用いて解決するようなものを想定する。また交流イベントを通じて、地域の人たち間の関係性をはぐくむ。

具体的には・・・

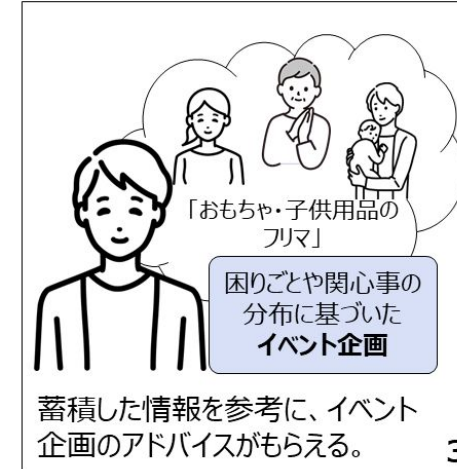
- ①で収集した地域情報をもとに、地域の課題解決につながる交流イベントをシステムが提案してくれる
- 提案画面では、過去に行った事例や、地域・住民に与える効果、実施上の留意点、支援してくれるサポーター候補など、実行にあたって助けになる情報をシステムが自動で引っ張ってきてくれる

解決される課題


- 地域の困りごとや資源の情報は一部の人しか把握しておらず、それらを交流イベントの内容や支援してくれるサポーター候補につなげる方法は属人的になっている
- イベント企画は繰り返しのものが多いが、経験がないと企画・実行が難しい
- イベントが地域に対してどのような効果を与えるか理解しづらい
- イベントが住民の価値になるものになっているか企画者が必ずしも意識していない
- 法令上の問題など実施上の課題を企画者が把握しづらい

ストーリーボードの対応イメージ

地域でのイベント企画



| | |
|--------|--|
| 画面イメージ | ②イベントの提案(一覧) |
| 主な機能 | コミュニティマネージャーに向け、参加者の声とサポーターの状況に基づき、地域で開催するイベント案を提示 |

| コミュニティ管理  | |
|--|---|
| ホーム | 分析結果 <u>分析に基づいたイベント提案</u> |
| 周知 | 2025年1月 までに収集した下記のデータに基づき、地域で盛り上がるイベントを提案します。 |
| ▼地域 | <ul style="list-style-type: none">参加者の声(支援してほしいこと、参加したてみたい活動)サポーターの状況(支援できること、支援可能な曜日・時間帯など) |
| 分析 | |
| サポートリスト | |
| ▶参加者 | |
| ▶サポーター | |
| ▶イベント+ | |
| | <h3>1. 料理スキルシェア&地域食材マルシェ</h3> <p>住民が得意料理を持ち寄って教え合う料理教室と、地元の新鮮な野菜や加工品を販売するミニマルシェを同時開催。</p> |
| | <h3>2. お助けDIYワークショップ&お片付け相談会</h3> <p>家具の修理や簡単なDIY方法を学べるワークショップと、片付けや掃除のコツを教える相談会をセットで実施。</p> |
| | <h3>3. ペットしつけ教室&交流会</h3> <p>ペットのしつけ方法をプロから学び、愛犬家同士で交流する場を提供。ペット用品のフリーマーケットも併設。</p> |

| | |
|--------|--|
| 画面イメージ | ②イベントの提案(詳細) |
| 主な機能 | 各案において、過去の参考事例、地域に与える効果、参加者・サポーターの候補提示、注意事項などを提示 |

コミュニティ管理

- ホーム
- 周知
- ▼ 地域
 - 分析
 - サポートリスト
 - ▶ 参加者
 - ▶ サポーター
 - ▶ イベント

分析結果

2025年1月 まで

- ・ 参加者が声
- ・ サポーターの

1. 料理

住民
売す

2. お助け

家具
相談

3. ペット

ペット
リー
マー

2. お助けDIYワークショップ & お片付け相談会 ×

家具の修理や簡単なDIY方法を学べるワークショップと、片付けや掃除のコツを教える相談会をセットで実施。

| 参考事例 | 内容 |
|------|---|
| | ・ <u>楽しいお片付け講座</u> (2024年3月12日) |
| | ・ <u>すっきり片づけられるおもちゃ箱を作ろう!</u> (2023年11月25日) |
| | ・ <u>DIYリモートワーク環境</u> (2020年12月2日) |

地域に対してこんな効果が期待できます

- ・ 地域で修理や片付けに困っている住民が把握できる
- ・ イベントをきっかけに困っている方とサポートできる方をつなげることができる

こんな方に参加を勧めるとよいです

- ・ 家に不要なものが増えて片付けたい方
- ・ 壊れている家具があって、自力で修理できない方
- ・ 不要なものを無駄にせず、リサイクルやリユースを考えている方

こんなことを気をつけると安心して参加していただけます

- ・ 工具の扱いにおける安全指導
- ・ 相談内容のプライバシー保護

地域でこんなサポーターがいます

14
片付け
家事

整理収納アドバイザー 1級の資格を持っています。お片付けのコツを教えます。

○○さん

| | 早朝 6時～9時 | 午前 9時～12時 | 午後 13時～16時 | 夜 18時～22時 |
|----|-------------|--------------|---------------|--------------|
| 平日 | × | ○ | ○ | × |
| 週末 | × | ○ | ○ | × |

バリュープロポジションでのキーポイント

対面のよろず相談窓口と組み合わせて、デジタルでサポーターのマッチングを効率的にする。困りごとを登録したり、交流イベントに参加したり、サポートすると地域に貢献した感謝ポイントが付与されて、自分のかかわり具合を実感できる

具体的には・・・

- サポーターはマイページで自分の支援内容や支援可能な時間を登録すると、支援を現在必要としている相性がよさそうな困りごとが提示され、支援を申し込むことができる。
- 地域にどれくらい貢献しているかはランクや感謝ポイントで視覚的に確認できる。運営側でなんらかの優遇などにつなげることも容易。

解決される課題

- 住民同士での助け合いを運営する際、アナログで行うと効率が悪い
- 現在のまちづくりではサポーターなど運営側を情緒的にも実利的にも動機付ける仕組みが不足している

ストーリーボードの対応イメージ

サポートの申し込み



サポーターのレベルアップ



| | |
|--------|---|
| 画面イメージ | ⑤参加者・サポーター(助け合い) |
| 主な機能 | マイページで自分の支援内容や時間を登録すると、サポート機会の提案を受けられる。また貢献度を確認できる。 |

